

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.
119
海建

カイケン magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
修士論文・卒業研究
就職状況

目次

令和5年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	大学院特別研究担当教員	15
令和4年度 学生受賞	3	博士論文+修士論文+卒業論文・卒業設計	16
学科イベントカレンダー	3	教員研究業績・研究室活動業績	18
研究室紹介	4	就職情報	29

● 令和5年度 研究室説明会日程

時間	1時限		2時限		3時限		4時限	
日・教室	9:35~10:15	10:25~11:05	11:15~11:55	13:20~14:00	14:10~14:50	15:00~15:40	15:50~16:30	
4月5日(水) 1325教室	北嶋研究室 [構造工学]	高橋研究室 [建築構法]	福井研究室 [コンクリート 構造工学]	恵藤研究室 [海洋構造デザイン]	居駒研究室 [海洋空間利用工学]	海洋物理・計算 工学研究室 (相田)		
4月6日(木) 1325教室	佐藤研究室 [建築デザイン・計画]	海洋建築・建築 デザイン研究室 (菅原)		山本研究室 [沿岸地域計画学]	ウォーターフロント 都市工学研究室 (寺口)	星上研究室 [沿岸環境防災]		

令和5年度 教室主任・クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
教室主任	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B1 年	星上 幸良	1335	047-469-5396	hoshigami.yukiyoshi@nihon-u.ac.jp
	菅原 遼	1356	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B2 年	高橋 孝二	1365	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp
	寺口 敬秀	1357	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B3 年	居駒 知樹	1341	047-469-5482	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
クラス担任 B4 年	佐藤 信治	1353	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
	相田 康洋	1342	047-469-5423	aida.yasuhiro@nihon-u.ac.jp
クラス担任大学院	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
クラス担任(学生相談)	佐藤 信治	1353	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp

令和5年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	高橋 孝二	1365	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp
	寺口 敬秀	1357	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
学生相談	佐藤 信治	1353	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
留学生担当	高橋 孝二	1365	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp

学科
事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL : 047-469-5420 FAX : 047-467-9446

岡崎 敏美
関野 まゆみ

okazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
sekino.mayumi@nihon-u.ac.jp

学生受賞

●日本大学学長賞

内藤隼汰

●優等賞

内藤隼汰 福永佳晏
山下雅人 法橋礼歩

●理工学部長賞

小出将貴：日本沿岸域学会全国大会にて2年連続で「研究討論会優秀講演表彰」受賞（ウォーターフロント都市工学研究室）
野々下桃花：日本建築学会大会学術講演会（海洋建築部門）にて「若手優秀発表賞」受賞（ウォーターフロント都市工学研究室）

●加藤賞

森川 葵：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造物の地震応答性に関する研究－基礎板の加速度上昇要因と浮上り挙動の検討－（北嶋研究室）
押見青幹：UAV 写真測量における地形計測精度を補正する画像処理法の開発（星上研究室）
高須健亘：津波自主避難計画の普及促進に関する研究（星上研究室）

●海建優秀賞

江口琢茉：観測加速度記録に基づく RC 造建物の応急危険度判定法の適用性に関する研究－大型振動台（E ディフェンス）による実大実験結果を用いた検討－（北嶋研究室）
齊木はな・田原拓実・古川雄一郎：浜松町駅旅客ホーム上家の柱部材に関する調査（福井研究室）

●桜建賞

野々下桃花：災害救援拠点としての「海の駅」の利活用に関する研究－全国の海の駅を対象としたアンケート調査－（ウォーターフロント都市工学研究室）
尾沢圭太：防災施設としての機能を持つ大仏殿の設計（佐藤研究室）
上泉咲季：葉山町の『邸園』に見る借景としての海に関する研究（親水工学研究室）

●海建賞

福永佳晏：一様流中における回転円柱周りの流速とレイノルズ応力の分布特性に関する実験的研究（居駒・相田研究室）
小泉善・内藤隼汰・山村龍斗：多層木質ラーメン構造の応答性に関する研究（高橋研究室）
中島啓貴・野村幸生：浮体式構造物が設置された閉鎖水域のスロッシング解析（恵藤研究室）
朝倉拓海：波の作用下に対する牡蠣殻の挙動および牡蠣殻の水質浄化機能（沿岸域工学研究室）
梅澤秀太：『圏外建築』監視権力のパノプティコン化（小林研究室）
長島怜治・堀江辰海：海浜におけるマイクロプラスチックの分布状況に関する研究（星上研究室）
長坂建志：商業捕鯨再開における捕鯨業の現状と地域活性化に関する研究（山本研究室）

●桜工賞

押見青幹・武川芽生：学会発表における受賞により海洋建築工学科の知名度向上に貢献のため
法橋礼歩：学外コンペにおける受賞により海洋建築工学科の知名度向上に貢献のため
小出将貴・山戸善伸・任晴雯：学科広報活動への多大なる貢献のため

●令和4年度（第66回）理工学部学術講演会優秀発表賞

加藤百華：間柱型鋼材ダンパーを設置した制震構造物の設計法に関する研究－梁の曲げ変形の影響によるダンパー降伏時の層間変位の検討－（北嶋研究室）
林 大輝：レーザー測量器による丸の内伸通りの空間測量 その1：点群データから立面図の作成について（佐藤研究室）
福田晃平：福島第一原発 廃炉計画における冠水工法の検討と展示を兼ねたIAEA調査拠点施設の計画（小林研究室）
小出将貴：港湾空間の一般開放に関する研究－釣り文化振興モデル港に対するアンケート調査－（ウォーターフロント都市工学研究室）
阿部拓真：都市の水災害対策における容積率緩和制度に関する研究－政令指定都市および中核市に対するアンケート調査結果－（ウォーターフロント都市工学研究室）

学科イベントカレンダー

2023年

4月7日(金)	新入生歓迎式	夏季休暇中	海洋実習Ⅱ（2年生）
5月13日(土)	新入生オリエンテーション	8月8日(火)、9日(水)	日韓シンポジウム（船橋キャンパス）
7月中旬	「海と建築」ポスター発表会（1年生）	11月上旬	桜理祭
夏季休暇中	海洋実習Ⅰ（1年生）	11月30日(木)	理工学部学術講演会

2024年

1月上旬	博士論文公聴会	3月12日(火)	卒業・修了発表
2月上旬	卒業研究発表会	3月25日(月)	卒業式（学位記伝達式）
2月下旬	修士論文審査会	—	—

建築デザイン・計画研究室

1353 室

Teaching Staff



准教授
佐藤 信治

●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築やデザインが好き！であることが大切です。建築のデザインはある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイ・ガヤガヤと学びたいと思います。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画するということも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、大学院、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%（当研究室比）を維持しています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計・デザイン〉と〈建築計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計・デザインテーマと建築計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計・デザインテーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・内蔵を活用したサテライトオフィスのデザイン
- ・3Dスキャナーを活用した空間アーカイブ
- ・「MR(Mixed Reality)」を活用したデザイン
- ・Urban Plan program in Japan (ULI) への参加

〈建築計画テーマ〉

- ・国指定登録有形文化財の調査・研究
- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究



〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して九州や東北の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。2022年は、国立鹿児島工業高等専門学校とコラボレーションした合宿を行いました。合宿期間中においては、自ら調べ、様々な建築物をデザインし、歴史的空間再編コンペティション2022に応募・プレゼンテーションし、交流を図ります。

また、2011年度からは中華人民共和国北京市の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しております。また、研究室としては2022年は横浜市でのN地区においてホテルリゾートをデザイン（写真1）し、計画は現在進行中です。さらにアメリカのAIAアジアとの共同プログラムとしてUrban Plan program in Japan (ULI) へ参加しております。

●ゼミナールのテーマ

設計デザイン及び建築計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。また、大学院生や学部生とのコラボレーションでコンペへの参加を推奨しております。建築学生ワークショップ宮島2022に2チームが参加し、最優秀賞につぐ特別賞を受賞しました（写真2、3）。また、卒業設計では速報として千葉県建築学生賞において特別賞と、市民賞を受賞しております（写真4）。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。

沿岸地域計画学研究室

1362 室

Teaching Staff

准教授
山本 和清

●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ（旧アクセスディンギー）」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置つけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業を中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し（写真1、2）、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障

がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

●卒業研究のテーマ

【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と「環境・観光・学習」港湾計画
- 2) 沿岸域の防災まちづくりに関する手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

【海洋プロジェクト系】

- 1) 海洋政策及び沿岸まちづくりにおける制度設計（再生・復興・復活・改革）
- 2) Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。



写真1 「たてやま海まちフェスタ」ハンザ体験乗船会



写真2 「船橋港まつり」ハンザ体験乗船会



写真3 研究室合宿でのゼミ課題発表会



写真4 新入ゼミ生歓迎会（東京都臨海広域防災公園見学会）

海洋建築・建築デザイン研究室

1356 室



●研究室紹介

当研究室は、**<意匠系>**と**<計画系>**の2つの系で構成されており、意匠系では卒業設計、計画系では卒業研究の着手が基本となります。

<意匠系>「建築を通して社会貢献する」を理念とし、設計提案または研究活動の成果を実際のプロジェクトに反映できるようにしています。

新たにデジタルファブリケーションによる建築パラメトリックデザインを研究テーマに加えました。地方活性化に繋がる空き家の設計から施工までのリノベーション実施プロジェクトを開始しています。また、デジタルファブリケーションは、遠洋における海洋開発資源基地の居住空間の設計から施工までのセルフビルドに貢献できます**(写真：上段)**。

<計画系>水と都市、建築、生活の観点から、生活環境の質的向上に資する水辺空間や海洋建築の計画的知見を得るための研究を行っています。

研究活動では、都市・建築・生活と水との関係を観察できる現地調査を重視し、都市部から農村部にかけての多様な水環境の調査を行います。そのため、「歩く・見る・考える・伝える」チカラの修得を重視し、研究テーマに関する理解増進や興味・関心を深めるための活動を行っています。

また、地域連携型の研究・設計活動も取り組んでおり、研究成果の発信や地域協働によるものづくり経験を通して、まちづくり・ものづくりに対する多角的な考え方を養うことを重視しています**(写真：下段)**。

●ゼミナールのテーマ

<意匠系> デジタルファブリケーション建築デザインをテーマとします。パラメトリックデータ利用で、設計からセルフビルドまで実施プロジェクトに取り組みます。

<計画系> 都市・地域・建築計画に対する思考力や表現力の修得に向けたゼミ課題を実施します。また、地域と連携した実際のデザインビルドを全国各地の水辺空間で行います。

●卒業研究のテーマ

<意匠系> 建築・海洋建築・まちづくり計画デザイン

- ・建築と土木を融合した海洋建築デザイン
- ・知的生産性を高める建築デザイン
- ・3.11 復興計画デザイン
- ・既存ストックを利用した建築デザイン
- ・デジタルファブリケーション建築パラメトリックデザイン

<計画系> 水環境と都市、建築、生活との係わり

- ・都市の水辺の賑わい創出に関する研究
- ・港湾施設の現代的活用方策に関する研究
- ・地方都市や農漁村の地域活性化に関する研究
- ・水害常襲地域の地域・建築的対応に関する研究
- ・都市水面の活用に資する建築デザイン

●着手条件

建築大好きな学生、デザイン（建築に捉われない）大好きな学生がゼミ着手必須条件となります。研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください。

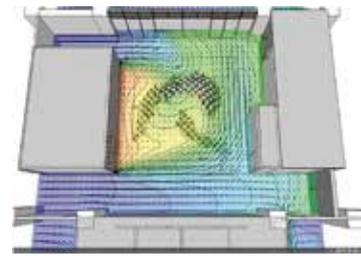
また、ゼミ活動に支障のない程度の単位数を取得していることを希望します。



学生によるセルフビルド



ファニチャー・ウォール (13号館)



空気の流れシミュレーション



湧水地域のまち歩き (三島市)



水辺の賑わいづくり (横浜市)



水辺の建築の実測調査

ウォーターフロント都市工学研究室

1357 室



●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室の目標にしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り有効に使うことです。ゼミで最初に学ぶのは「時間の管理」です。時間を把握し、主体的に管理し、破綻のないスケジュールングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、自分の好きなことで挑戦できます。問題だと感じていること、将来、社会で必要になってくることを考え、自らが提案します。計画や企画・開発の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「ニーズを掘り起こす能力」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。自分の言葉で、わかりやすく、決められた時間内で、興味を引き飽きさせない「プレゼンテーション力」を養います。

●ゼミナール活動

前期は、時間の管理や就活に向けた座学と、三番瀬やWFの見学会を実施します。7月～12月末までの約半年間はゼミナール研究論文を作成し、成果は学会で発表します。本研究室では、ゼミ・卒研共に学生自身でテーマを企画、実行してもらいます。過去の卒業生の数だけテーマがあるので、研究のバリエーションの豊富さも本研究室の特徴です。学生の学会発表状況などは、本誌各研究室紹介の後に続く「教員研究業績・研究室活動業績」をご覧ください。

●2022年度のゼミナール研究論文テーマ

- 石田大誠：海辺に立地するグランピング施設の整備実態について
- 河合泰誠：洋上風力発電施設に対する漁業者の意識や要望について
- 小松直純：津波避難シェルター普及促進策について
- 齋藤友祐：水族館の津波避難計画について
- 佐瀬智之：防災船着き場の設備と案内表示の整備状況について
- 杉田祐将：年間を通じて多目的に利用できる海岸整備について
- 鈴木陽斗：WFの夜間景観整備に向けた自治体のライトアップ計画・条



三番瀬散策会の様子



ゼミ生発表会の様子

例について

砂原光晴：WFにおける電動キックボードの活用実態について
 田中陽介：事故防止に向けた海水浴場における情報機器の活用状況について

●過去の卒業研究論文テーマ例

(A) ウォーターフロントを快適利用する環境整備

- ・WFの住宅を選ぶ住民の居住環境意識
- ・調整池の市民開放と多目的利用に向けた方策
- ・ペット専用ビーチの整備と運営手法
- ・WFの特性に配慮した公衆トイレのデザイン

(B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ・港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存策
- ・水辺景観を向上させる保存船舶の展示方法
- ・要塞跡・砲台跡の利活用方針
- ・SNS投稿内容からみた観光客の興味対象の分析

(C) ウォーターフロントの開発と有効利用

- ・漁港や港湾を活用した沿岸部の地域振興方策
- ・浮体施設の建造に伴う法規制の研究
- ・灯台の地域資源としての価値評価と保存活用方法
- ・WFに立地するワーケーション施設の整備実態

(D) ウォーターフロントの減災対策

- ・津波ハザードマップの表記統一と利用促進方法
- ・津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度内容
- ・海水浴場などマリナー施設等の津波避難計画
- ・市町村連携による避難困難地区の解消方法

※研究室に過去のリストがあるのでぜひみてください

●主な年間行事 (③④の学会発表は4年生以上)

- ① WF見学会・ゼミ生歓迎会 (5月)、②三番瀬体験散策会 (6月)、③日本沿岸域学会研究討論会での発表 (6月)、④日本建築学会大会での発表 (9月)、⑤夏季研修旅行 (9月)、⑥日本大学理工学部学術講演会での発表 (12月)、⑦ゼミナール研究論文発表会 (12月)、⑧研究室卒研発表会 (2月)

●着手条件

研究室説明会に必ず出席し、個人面談を受けてください。研究活動では自分の目で見て感じたことや興味・疑問を持ったことからテーマを決めるので、本研究室のフィールドに興味があり、現地に出向くことや体験することが好きな人が好ましいです。なお、基礎知識として、ウォーターフロント計画Ⅰ・Ⅱ、建築法規などの科目を履修していることが望ましいです。

興味を持ったらまずは教員や研究室の学生に話を聞いてみてください！

海洋空間利用工学研究室

1341 室

Teaching Staff



教授
居駒 知樹



助手
譚 雷

●研究室紹介

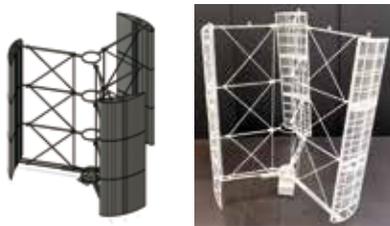
当研究室は海洋空間を幅広く利用することを目的とし、特に海洋再生可能エネルギーと海洋資源利用のための技術開発の分野を扱っています。そのために海洋構造物が波や風、潮流といった外力からどのような影響を受けて、どのように動くかなどの波浪中の耐波性能の視点から設計を考える研究をしています。研究領域としては海上プラットフォームの新技術開発、波力発電・洋上風力発電浮体・潮流発電等のシステムの解析法開発・最適化など海洋空間を利用するために必要な工学技術全般を対象としており、必要な各種解析プログラムの開発やそのための理論構築を日々行っています。

●研究プロジェクト

- ① 振動水柱型波力発電装置の高性能化
- ② 浮体式垂直軸型潮流発電の実用化と性能評価
- ③ 浮体式垂直軸型風車のタービン性能と耐波浪性能からみた実現可能性の検討
- ④ 浮体式太陽光発電の波浪中応答特性に関する検討
- ⑤ 大水深掘削技術に関わる流体現象の解明

●卒業研究のテーマ

卒業論文・修士論文に記載したテーマや、それぞれのテーマにまたがった横断的な研究テーマも含め、各自の意向に基づき卒業研究を選択して実施します。



3D プリンターによる垂直軸型風車模型の製作



振動水柱型波力発電装置の水槽実験

●着手条件

特に条件は求めないが「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生、また大学院への進路希望者を歓迎します。海洋空間での浮体の利用、更なる海洋再生可能エネルギーの利用や開発など「海洋建築」に興味があり、世界のレベルで活躍したい学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。

●ゼミナール活動

- ① 海洋再生可能エネルギーを取り巻く現状についての講義
- ② 数値解析法とプログラミング
- ③ 波の基本特性に関する水槽実験
- ④ ラズベリーパイを用いた電子工作
- ⑤ Fusion360 を用いた浮体模型の設計
- ⑥ 3D プリンターを用いた浮体模型の製作および水槽実験



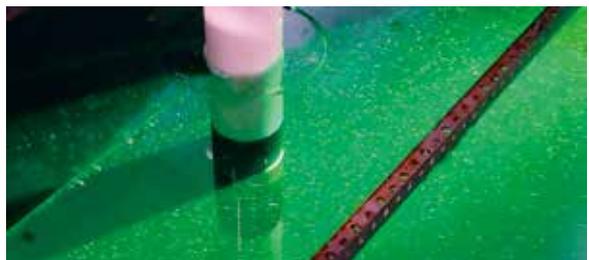
浮体式垂直軸型水車の実海域実験



浮体式垂直軸型風車の実験模型



浮体式太陽光発電施設の水槽実験



大水深掘削技術に関わる回転円柱の水槽実験

海洋構造デザイン研究室

1345 室



2019年度の夏合宿(群馬県 花咲温泉)
※今年こそ行きたいですね!

Teaching Staff



准教授
恵藤 浩朗

●研究室紹介

『海の“チカラ”で未来はもっと素敵になる』というコンセプトのもと、新しい価値を有する海洋建築物を提案し、海洋建築物の実現に向け技術的な課題を解決する研究活動を展開しています。そして「海」に求められる価値を最大限に発揮するデザインを考え、検証と改善を繰り返しクオリティの高いものを生み出す「デザイン思考」を身に付けた技術者の育成を念頭に指導します。皆で“楽しく”学べる、そんな研究室を君達と一緒に創れたらいいなと考えています!

<研究室の主な年間行事予定>

①ゼミ生歓迎会(4月末予定)、②タイピングコンテスト(7月)、③卒研・修論中間報告会(夏季)、④体験航海(8月)、⑤夏合宿(9月)、⑥卒研・修論最終報告会+打ち上げ(2月)、⑦卒業式

●卒業研究のテーマ

「海」を利用した新しい価値、新しい社会を構築する海洋建築物を提案し、海の作用を直接受けるそれらの実現に必要な設計関連技術の全てが研究対象です。

- 1) 新しいコンセプトを持つ海洋建築物の提案とその実現可能性に関する技術的な検討
- 2) 係留システムを含めた大型浮体式海洋建築物の波浪中応答

解析や構造解析による各種性能評価

- 3) 浮体式の垂直軸型風車や交差軸型風車に作用する風荷重解析と風や波、潮流などによる動揺問題
- 4) 粒子法 (SPH 法) による閉鎖された水域に浮かぶ浮体式構造物の地震動に伴うスロッシング解析
- 5) GIS (地理情報システム) などデジタル情報技術を活用した災害時医療支援浮体などの適地選定
- 6) 数値計算による生態系ネットワークの解明など

●ゼミナールのテーマ

ゼミでは、卒業研究や就職活動、大学院生活で役立つ海洋や建築の基礎をしっかりと身に付けます。

- 1) 海洋建築物に関する基礎的な知識を深めます
- 2) PC スキル (レポート作成、プレゼンテーション、CAD によるモデリング、GIS など) を鍛えます
- 3) プログラミングを基礎の基礎から学び、また研究で扱うソフトウェアの講習を通して基礎的な数値シミュレーション能力を身に付けます

●着手条件

「海洋建築」が大好きな人を募集しています。必要な知識やスキルは研究室所属した後に共に学びます。興味があれば、研究室説明会に必ず出席し、個別面談(教員や所属学生との雑談)を受けて下さい。

最新情報は
こちら➡



Web



Instagram

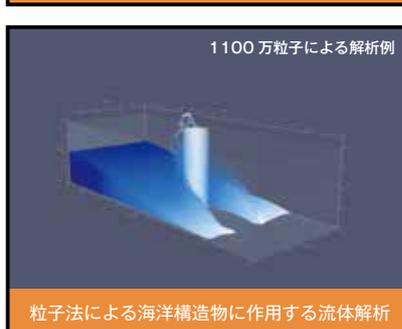
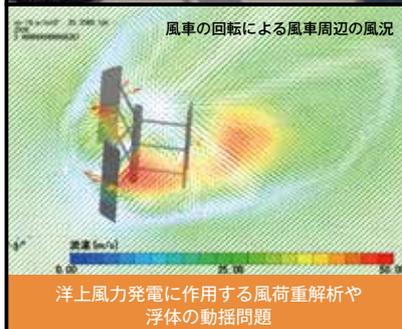
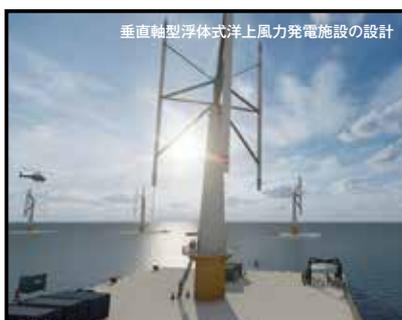
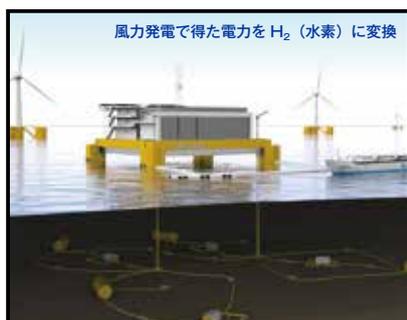


Facebook

Web : <https://etohiroaki4.wixsite.com/labo> (PC での閲覧を推奨)

Instagram : https://www.instagram.com/marine_structural_design_lab/

Facebook : <https://www.facebook.com/msdl.nu/>



海洋物理・計算工学研究室

1342 室

Teaching Staff



助教
相田 康洋

特任教授
近藤 典夫

●研究室紹介

当研究室は、波や流れが海洋建築物や海洋構造物にどのように影響を与えるかについて、数値流体力学（CFD）的手法を駆使して解き明かすことを主なテーマとした研究室です。波浪や津波によって構造物にどのような力が作用するのか、浮体構造物はどのように運動するのか、浮体構造物が建築物や構造物に衝突した際にどのような力が作用するのかなど、構造物とそれを取りまく流体をコンピューター上で再現し、実験とも比較しながら振舞いを明らかにすることに取り組んでいます。また、日本の沿岸の波浪の性質や、長期的な波高の変動予測高波の発生メカニズムや、太平洋を伝播する津波の再現、さらに発展して津波避難経路を算出し避難中の津波遭遇を再現するシミュレーターの開発など、波や流れに関することなら全てが研究テーマです。

研究室の活動は、ゼミナール、卒業研究発表会、懇親会などを予定しています。

研究のキーワード：数値流体力学、流体解析、浮体挙動、津波防災・減災、強非線形海洋波

●ゼミナールのテーマ

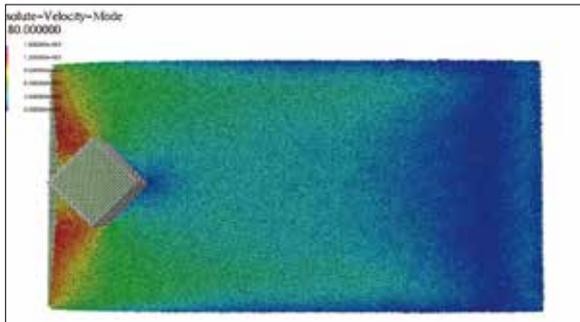
ゼミナールでは、卒業研究に必要な知識の基礎を演習形式で修得します。3年生の段階で、シミュレーションの基礎を演習と講義を通じて理解し扱えるようにするとともに、水槽実験の基礎や、水波工学の基礎から応用について修得していきます。

●卒業研究のテーマ

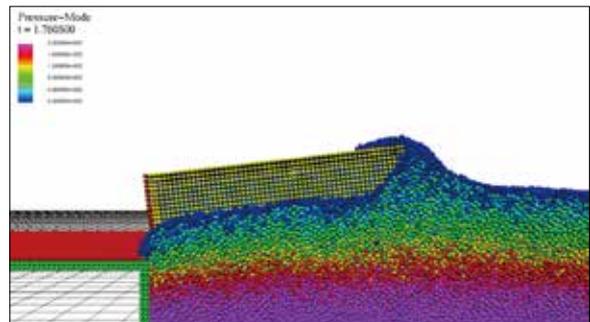
各自の意向に基づき卒業研究を選択して実施します。また、取り組んでみたい研究テーマがあれば、相談可能です。

●着手条件

特に条件は設定しない。海洋の波や流れ、数値シミュレーションに興味のある学生を歓迎します。是非、研究室へ相談に来て下さい。



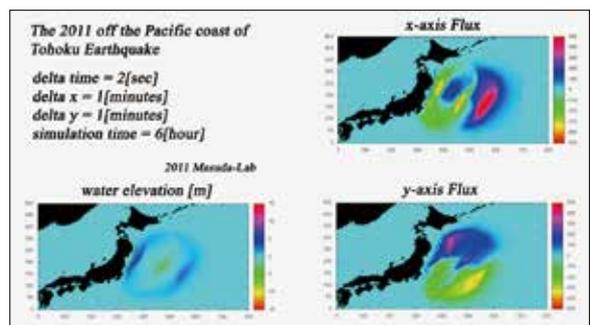
建築物周りの津波流れ場の再現シミュレーション



浮体式構造物の乗り上がりシミュレーション



日本に襲来した台風の経路ヒートマップ



東北地方太平洋沖地震津波の再現シミュレーション

構造工学研究室

1361 室

Teaching Staff



教授
北嶋 圭二

●研究室紹介

北嶋研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、設置場所や構造種別にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に「より高度で合理的な構造システム」に着目して研究を行っています。

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた、“建築構造システム”および“建築構造部材の構造性能”に関する実験的研究が多いことです。これまでに世界的にも例の少ない大型構造実験を数多く実施してきました（写真1）。

また、建物の耐震性能評価や制震構造設計法の開発のために、弾塑性地震応答解析などコンピューターによるシミュレーション技術を用いた解析的研究も数多く行っています。その他、テクノスペース 15 に設置されている低温実験室の氷海水槽を用いた実験的研究も行っています。

建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか幅広い分野を対象に研究を行っています。

●主要な研究テーマ

1. 鉄筋コンクリート(RC) 建造物の耐震性能に関する研究

- 1-1 損傷低減のための耐震設計法並びに制震補強技術に関する研究
- 1-2 構造ヘルスマニタリングシステムに関する研究・開発
- 1-3 超高層 RC 建造物の柱梁接合部の構造性能に関する研究
- 1-4 海外の RC 建造物の耐震規定に関する調査・研究 etc

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- 2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究（写真2）
- 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究（写真3）
- 2-4 制震構造建造物の性能評価法および設計法に関する研究



写真1 大型構造物試験センターでの構造実験



写真2 滑り基礎構造建造物の振動台実験



写真3 折返しブレースの取付状況



写真4 低温実験室における氷海構造物の実験

2-5 間柱型レンズダンパーの研究・開発

2-6 構造実験における 3D プリンターの利活用方法に関する研究 etc

3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

- 3-1 津波漂流物の衝突に関する研究
- 3-2 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究(写真4)
- 3-3 海底地すべりに関する実験的研究
- 3-4 海洋建築物の設計指針策定に関する調査・研究 etc

4. その他、企業からの受託研究など

1-1 の制震補強技術は既に 100 棟以上の実施適用例があり、実際の地震防災対策に大いに役立っています。2-3 の折返しブレースや 2-5 のレンズダンパーのテーマも既に実施例が数例あり、合理的な構造システムとして注目されています。その他のテーマについても、研究成果を論文発表というかたちで情報発信することにより、構造技術の発展に貢献しています。

●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定しています。

●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行います。また、海洋構造物や陸上建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるために、自分たちでテーマを決めて小型模型実験を実施します。実験は学部祭にて公開します。

●着手条件

構造に興味があり探究心旺盛で、研究に関する労力を惜しまない人を歓迎します。

コンクリート構造工学研究室

1366 室

Teaching Staff



教授
福井 剛

●研究室紹介

研究のこと：私たちの研究室では、建築構造および材料Ⅱの後半で学んだプレストレストコンクリート（以下 PC）構造（オープンキャンパスで皆さんが乗って驚いていたあのコンクリートの板です）を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指して研究を進めています。PC 構造は、①ひび割れが生じないために沿岸域においても耐久性が極めて高く、② 30m を超える大スパン構造を作ることができるためにデザイン性に優れた建物を作ることが可能です。また③優れた復元性があるため耐震性にも優れています。これらの特性を活かして、東京スカイツリーの心柱や原子力発電所施設といった飛び抜けた高性能が要求される構造体や、2002FIFA ワールドカップや 2021 年に行われた東京オリンピック施設といったデザイン性を求められる建物などに広く使われています。私たちの研究室での合言葉は、「研究成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」です。信頼性が高くシンプルで独創性に富んだ研究成果は、国や学会の設計規準に多く採用されており、対外的に高い評価を受けています。

研究室の雰囲気：堅い話になってしまいましたが、私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員とゼミ生、卒研究生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。ただし、ここぞと言うときは真剣勝負です。

年間行事：①顔合わせ会：所属の決まったゼミ生が卒研究生、院生、教員と親睦を深めるために 4 月下旬に実施。②夏合宿研究発表会：卒研究生、院生が行っている研究の経過を発表するために厳格な雰囲気のなか 9 月初旬に実施。発表終了後は普段通りの無礼講タイム。③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝うための行事。④ほか：めでたいことなどがあれば適宜。

●ゼミナールのテーマ

- 1)マトリクス法による任意形骨組解析ソフトとファイバー法による断面解析ソフトの作成
- 2)構造力学およびコンクリート構造の勉強会及び演習
- 3)卒業研究時に必要なコンピュータスキル（CAD、エクセル、パワーポイント）の修得

テーマ 1)、2)は、それぞれ週 1 回教員が、テーマ 3)は週 2 回大学院生が担当しています。ゼミ生にはこれらのテーマから 2 つ以上を選択してもらいます。3 年次には受講しなければならない大切な専門科目が目一杯あるので、そちらにも十分な時間が割けるよう配慮しています。

●卒業研究のテーマ

- 1)圧着 PCaPC 部材のせん断抵抗機構
- 2)長期荷重が PC 造建物の地震後の性能に及ぼす影響
- 3)RC および PC 部材のせん断終局強度式の提案
- 4)PC 有孔梁の合理的な設計法の開発
- 5)PC 造柱梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 6)プレキャスト PC 圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法の提案

上記の卒業研究の内、1)は実験を計画しています。苦勞は伴いますが体で感じる達成感は抜群です。2)～ 6)は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいのかもしれませんが、研究テーマ名だけではワクワク感がないかも知れませんが、君たちが、真剣にこれらのテーマに取り組むとはまります。

●着手条件

ゼミに欠席しないことと卒研に没頭することを約束できることを最優先条件とします。卒研に注ぎ込む時間を十分に確保できるように取得単位数が一定以上であるとさらに良し。研究内容と研究室の雰囲気に馴染めることを確認するために研究室訪問で院生や教員と話をしましょう。



写真 1 PC 梁のせん断破壊実験準備



写真 2 夏合宿

建築構法研究室

1365 室

Teaching Staff



准教授
高橋 孝二

●研究室紹介

日本国内で震度7を記録した大地震（阪神淡路大震災、東日本大震災など）が、この30年足らずで実に5回も発生しています。まさに本国は地震活動期の真っ只中にあります。また、ここ最近では地球温暖化の影響とされる想定を遥かに超えた風雨により、数多くの災害が発生しています。これら自然災害に対する防災・減災技術への貢献は、海洋建築工学科の大きな使命の一つであります。

本研究室では、「地震に強い建築」を目的に、耐震構造としての要求性能が高い超高層建築物や大規模な空間構造に関する研究を行います。また、研究室の取組の一つとして木質構造も取り上げます。近年、国内の森林資源の有効活用や持続可能な開発目標（SDGs）への対応として中大規模木造建築物への期待が高まっていることから、木造建築の高層化実現のための研究に取り組めます。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究や大学院での研究、卒業後に構造に関わる仕事をするための基礎となる知識を身に付けてもらい

ます。3年生で履修する構造解析や振動工学の知識をさらに深めてもらうため、平面フレームの構造解析や質点系の時刻歴応答解析の簡単なプログラミングを実施します。自分で実際にプログラムをすることにより、理解が深まりそれを発展させることにより卒論や修論の研究にも役立ちます。

●卒業研究のテーマ

卒業研究では、以下のような構造に関するテーマに取り組んでいます。建築構造に関わるテーマなら学生自身で選定しても構いません。

1)空間構造

・キャンチレバー屋根の地震時応答性状に関する基礎的研究

2)中大規模木質構造

・多層木質ラーメン構造の応答性状に関する研究

3)鉄筋コンクリート構造

・壁脚部のみに水平スリットを有する袖壁付き柱に関する研究

・プレキャスト工法における柱梁接合部の柱主筋の付着性状に関する実験的研究

●着手条件

1年生、2年生で学んだ構造力学の授業や海洋建築実験が「おもしろい」と思った学生なら問題ありません。将来、構造に関わる仕事（ゼネコン、設計事務所等の構造部門）を目指そうと思っている学生を歓迎します。



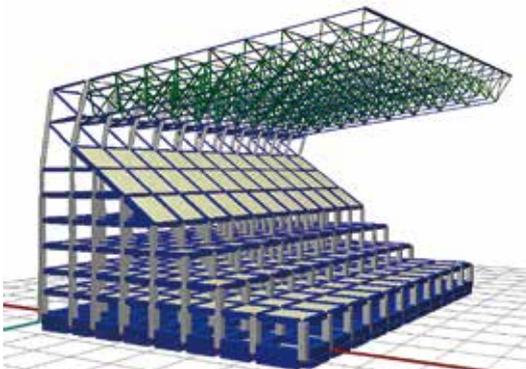
夏合宿



多層木質構造



袖壁付き柱の構造実験



空間構造



プレキャスト工法

沿岸環境防災研究室

1335 室

Teaching Staff

教授
星上 幸良教授
三五 弘之特任教授
小林 昭男

●研究室紹介

本研究室では、「沿岸域での防災と環境保全の両立」を基本テーマとして、海岸付近の物理・自然環境と人との係わりについて考究することを目的としています。

そのため「現場を把握する」ことを重視し、様々なフィールドを観察し、地域を学び、物事の意味を理解することからはじめます。また、民間コンサルの経験を活かし、研究やワークショップを通じプレゼン能力やマネジメント力、課題解決力を鍛え、実社会で活躍できる人材育成を行います。さらに、地域や事業と連携した実際的な研究活動を通して、高度な専門性だけでなく、広い視野と客観性、バランス感覚を養います。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、就活・進学のアドバイスに加えて、「ゼミ研」を通じ、卒業研究や実社会での活動に役立つ基礎的な素養を身に着けます。

- ・調査に参加し、現場の見方や環境問題を学びます
- ・広い視野と客観性を会得します
- ・コミュニケーション能力を向上させます
- ・バランス感覚と倫理観を育てます
- ・時間の使い方（マネジメント力）を学びます
- ・プレゼン能力を鍛えます



フィールドワークの様子



沿岸域工学研究室との合同ゼミの様子

- ・実環境に触れ、問題と課題を学びます
- ・防災、災害リスクについて正しく理解できます
- ・資格取得を支援します

●卒業研究のテーマ

国内外で課題を抱える沿岸域のフィールドを対象とし、以下のテーマで調査・研究を進めます。

【良好な環境保全を目指して】

- ・沿岸域での物理と環境に関する研究
- ・人為的要因による環境影響に関する研究
- ・ドローン等を活用した環境計測に関する研究

【安全安心な沿岸域を創造する】

- ・沿岸域での災害リスクに関する研究
- ・海岸保全の在り方や評価に関する研究
- ・沿岸の地域知、合意形成に関する研究

●着手条件

沿岸の環境保全や防災に興味のある学生、将来、ゼネコンや調査会社、コンサルタントへの就職を志望する学生、海や沿岸に“愛”のある学生なら、誰でもゼミナール・卒研に着手できます。



震災復興状況調査写真



ドローンを活用した調査の様子



▲星上研 youtube
チャンネルは
こちら！



星上研 Instagram は
こちら！▶

HOSHIGAMIKEN.OFFICIAL

令和5年度

大学院情報

海洋建築工学専攻では、以下の4つの科目群（環境系・計画系・構造系・総合）からなる授業科目と、4つの特別研究（海洋環境工学・海洋空間利用計画・海洋建築構造工学・海洋建築工学）からなる研究領域について、専門教員が指導します。

海洋建築工学専攻 履修モデル

科目群	＜学部関連科目＞ (参考)	博士前期課程 1年次		博士前期課程 2年次	
		前期	後期	前期	後期
環境系	海洋環境工学	海洋環境工学特論Ⅰ (海洋物理環境)	海洋環境工学特論Ⅱ (海洋化学生物環境)	海洋環境工学特別研究 海洋空間利用計画特別研究 海洋建築構造工学特別研究 海洋建築工学特別研究 ※上記特別研究は、下表の 専門教員が指導します。	
	海洋環境アセスメント	海洋システム工学特論	海洋環境マネジメント特論		
	海洋及び環境計測	海洋計測工学特論			
	水波工学	水波工学特論			
計画系	建築計画/海洋施設計画/ 親水空間計画	海洋建築計画特論	親水環境計画特論		
	デザイン演習	海洋建築デザイン特論	海洋建築ユニバーサル デザイン特論		
	海洋空間計画と関連法規/ ウォーターフロント計画	港湾空間計画特論	ウォーターフロント計画特論		
	海洋資源と開発技術/防災安全工学	海洋空間利用計画特論	沿岸防災計画特論		
構造系	構造力学/構造解析/振動工学/鋼構造	耐震構造設計特論	応答制御構造設計特論		
	建築施工法/コンクリート構造	海洋建築構造工学特論Ⅰ (構造システム工学)	コンクリート構造工学特論		
	地盤環境工学/防災安全工学	地盤基礎工学特論	海洋建築構造工学特論Ⅱ (地震リスク評価)		
	浮体工学/海洋構造物の構造計画	浮体工学特論	海洋構造物設計特論		
	海洋建築の材料と施工法/沿岸域工学	海洋構造物建設特論	沿岸構造物設計特論		
総合		海洋建築技術者倫理	海洋建築プロジェクトマネジメント	海洋建築特別演習	
		計算工学特論Ⅰ(数値流体力学)	計算工学特論Ⅱ(連続体力学)		
		海洋建築情報システム工学特論	海洋建築工学特別講義Ⅰ (寄付講座)	海洋建築工学 特別講義Ⅱ	
		海洋建築インターンシップⅠ・Ⅱ			
		海洋工学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			

大学院特別研究担当者（博士前期課程）

授業科目	単位数	資格	学位の種類	担当者
海洋環境工学特別研究	6	教授	博士(工学)	居駒 知樹
		教授	博士(工学)	星上 幸良
海洋空間利用計画特別研究	6	教授	博士(工学)	居駒 知樹
		准教授	博士(工学)	惠藤 浩朗
		准教授	博士(工学)	佐藤 信治
海洋建築構造工学特別研究	6	教授	博士(工学)	山本 和清
		教授	博士(工学)	北嶋 圭二
		准教授	博士(工学)	福井 剛
海洋建築工学特別研究	6	教授	博士(工学)	高橋 孝二
		教授	博士(工学)	福井 剛
		教授	博士(工学)	北嶋 圭二
		教授	博士(工学)	居駒 知樹
		准教授	博士(工学)	星上 幸良
		准教授	博士(工学)	惠藤 浩朗
		准教授	博士(工学)	佐藤 信治
	准教授	博士(工学)	高橋 孝二	
	准教授	博士(工学)	山本 和清	

博士論文



修士論文



卒業論文・卒業設計

小林(直)研究室

修士論文

- ◆王子涵 中国・北京市における少子高齢化問題の緩和に関する集合住宅の提案
- ◆古角虎之介 日本における複合観光施設を併設した環境配慮型客船ターミナルの計
~瀬戸内海の地域資源を活用した建築計画
- ◆福田晃平 福島第一原発 廃炉計画における冠水工法の検討と展示を兼ねた IAEA
調査拠点施設の計画
- ◆山戸善伸 歴史的建造物を活用したサテライトホテルの建築計画
~佐渡島の文化的価値を守る観光拠点の提案
- ◆吉沼直輝 既存大学施設を活用した内装木質化を有する環境配慮型建築の設計
~学生のコミュニケーション誘発と知的生産性を高める建築計画

卒業論文・設計

- ◆荒井基就 Tetrahedron Architecture
~共振する歓声、一つになる感情
- ◆大木貴裕 反抗と贖罪
~壊れゆく地球で生きていく人類の道標となる建築
- ◆金指通 Space Controller
~デジタルファブリケーションを用いた木パネルによる室内環境コントロール
- ◆久野祐璃 田老の記憶
~住民の想いをのせた田老の新しい姿
- ◆小峰碧純 感孚風動
~人に感動を与え、感化させる
- ◆鈴木智乃 原宿における宿泊施設の提案
- ◆鈴木晶美子 歴史的建造物のリノベーション事業における設計戦略
~山形県 山居倉庫を事例として
- ◆染田棟文 黄金比と建築
- ◆三谷翼空 噴火と住まう
~火山の噴火がもたらす空の恵みから成す建築集落の在り方
- ◆森田優莉 多様性の尊重と小児ホスピスの提案
- ◆謝雨辰 SDGs 目標における持続可能なまちづくりの再生
- ◆梅澤秀太 『園外建築』
~監視権力からの解放

佐藤研究室

修士論文

- ◆神林慶彦 横浜かわまちターミナル計画
~横浜市石川町における陸上と水上をつなぐ複合型駅舎の設計
- ◆中村正基 新金貨物線旅客化に伴う災害に対応した駅舎の設計
~避難機能をもつ複合型公共施設としての提案
- ◆藤田大輝 下町商工業地域における職人文化継承のための複合施設の提案

卒業論文・設計

- ◆安藤大翔 石油掘削リグを用いた移動式防災拠点の提案
- ◆池澤友真 響きあう湊
- ◆石黒敬太 雪を纏う価値とは。
- ◆異相咲希・林大輝 建築物が人々に与える影響に関する研究
~その4 丸の内仲通りを対象とした調査結果及び考察
- ◆尾沢圭太 防災施設としての機能を持つ大仏殿の設計
- ◆柴崎海奈 タマゾン水族園
~「タマゾン川」へ対応する水族園の提案
- ◆任晴雯 軒之下
- ◆林大輝・異相咲希 窓と建築用途の関係性に関する研究
~その3 丸の内仲通りを対象とした調査結果及び考察
- ◆藤巻拓也 丸の内ソラス
~丸の内上空に癒しを基本とした施設の提案
- ◆法橋礼歩 湯を纏う生活のはみ出し
~銭湯を中心とした 300m 地図の更新
- ◆松井良太 猫と杓子と
~生命による小さな崩壊から、動的な関係を孕む街へ
- ◆山田莉央 さくもの書店
~作物から本を作る
- ◆川内俊太郎 埼玉県秩父市における見学体験施設の設計
~菱光石灰工業生川工場を活用した建築の提案
- ◆西辻優世 助けあい、学び合い
~琴平町の階段を観光資源にする計画

山本研究室

卒業論文

- ◆竹井真登 日本海溝・千島海溝地震災害時における早期避難に関する調査研究
~陸奥湾に面する7市町村を対象として

- ◆長坂建志 商業捕鯨再開における捕鯨業の現状と地域活性化に関する研究
- ◆野口凜太郎 外国人滞在者と地域住民の共助に関する研究
- ◆道下匠 水産高校における地域との連携教育と新規漁業就業者の関係性に関する研究
~全国 45 校の水産高校を対象として
- ◆谷田部美依奈 在宅障害者の水害避難計画に関する研究
~水害危険地帯である江東5区を対象として

親水工学研究室

修士論文

- ◆今井晴貴 郊外住宅地を流下する中小河川の生活の質向上に対する効果に関する研究
- ◆今村勇紀 東京東部低地帯に位置する江東5区の木造住宅密集地域における複合
災害リスクに関する研究
- ◆長谷川演恒 隅田川テラスの持つ街路機能と歩行促進の関連性に関する研究

卒業論文

- ◆小嶋英志朗 東京都 23 区に立地する文化施設の空間構成からみた浸水リスクに関する
研究
- ◆坂本みさき テキストマイニング法を用いた隅田川沿いの飲食店における水辺の効用
に関する研究
- ◆杉山隼 Park-PFI における都市公園と水辺の一体的整備及び利用に関する調査研究
- ◆鈴木空 東京都臨海部の超高層マンション開発に見る水辺のオープンスペースの
整備実態に関する研究
- ◆鈴木貴之 全国の港湾都市における歴史的建築物の立地分布に関する基礎的研究
- ◆高橋佑侍 設計意図からみた美術館の水と建築の関係性に関する研究
- ◆竹内俊介 東京湾・伊勢湾・大阪湾臨海部に見る土地利用の実態に関する研究
- ◆平山隼斗 都市郊外部に位置する河川がもたらす微気象形成効果に関する研究
~東京都東久留米市落合川を対象として
- ◆星知里 重要伝統的建造物群保存地区の水害対策の動向に関する研究
- ◆上泉咲季 葉山町の「邸園」に見る借景としての海に関する研究
- ◆豊田佑生 水辺空間との係わりから捉えた児童の得られる効果に関する研究
~東久留米市落合川と江戸川区小松川境川親水公園を対象として
- ◆平山玄 東京湾臨海部におけるドライドックを有する造船所跡地の立地分布と変
容過程に関する研究

ウォーターフロント都市工学研究室(寺口・桜井)

修士論文

- ◆小出将貴 港湾施設を活用した海釣り施設の整備に関する研究
- ◆山田匠人 ウォーターフロントの特性を活かしたサイクリング環境整備に関する研究

卒業論文

- ◆倉田大河 ウォーターフロントの飲食店におけるオープンテラスの利用特性に関す
る研究
~東京・横浜を対象とした調査結果
- ◆阿部拓真 都市の水災害対策における容積率緩和制度に関する研究
~全国の大都市を対象としたアンケート調査
- ◆市川忠樹 河川および水路における開渠化と二層化に関する研究
~東日本を対象とした 17 年間の変化
- ◆今江啓太 ライフジャケット着用の普及促進に関する研究
- ◆友成勇翔 水災害時における道路高架区間等の緊急避難場所としての整備・活用
に関する研究
- ◆野々下桃花 災害救援拠点としての「海の駅」の利活用に関する研究
~全国の海の駅を対象としたアンケート調査
- ◆嶋田健太 親水テラスのデザインの分節化と統一化に関する研究
~隅田川両岸を対象とした調査
- ◆渡部颯将 津波・高潮浸水想定区域に立地する避難所の安全対策に関する研究
~東京湾沿岸の自治体を対象として

居駒・相田研究室

博士論文

- ◆田島佳征 沖縄のビーチ・パークを通してみた海浜空間の利用促進に関する研究

修士論文

- ◆武川芽生 構造物前面における津波漂流物の衝突速度減速効果に関する数値的研究
- ◆茂筑雄大 ムーンプールを有するポンツーン型浮体の定常波漂流力に与える自由表
面挙動の影響に関する基礎的研究

卒業論文

- ◆上野宏弥 可変ピッチ翼垂直軸型風車の 3-D プリンターによる製作と風車特性に
関する研究
- ◆佐々木亜美・中澤響生 津波遡上流中の漂流物の建築物への衝突速度に関する基礎的研究
~その1 津波遡上流の入射方向の違いによる建築物周囲の流
れ場の性状
~その2 建築物および漂流物規模と衝突直前速度の関係性

博士論文



修士論文



卒業論文・卒業設計

- ◆ 遊谷祐輔 NOWPHAS 波浪観測データを用いた台風の激甚化に伴う年最大有義波高の増大に関する研究
- ◆ 鈴木健斗 ムーンボール付きポンツーン型浮体に作用する定常波漂流力に関する基礎的研究
- ◆ 高原佳大 ギャップを有する浮体の波強制力及び波漂流力特性に関する研究
- ◆ 堤龍也 CFD を用いた PW-OWC の水面の共振現象に関する基礎的研究
- ◆ 福永佳晏 一様流中における回転円柱周りの流速とレイノルズ応力の分布特性に関する実験的研究
- ◆ 宮武竜希 動吸振器モデルを用いた PW-OWC 型波力発電装置の一次変換特性に関する研究

惠藤研究室

修士論文

- ◆ 李濟媛 円筒形タンク内の非線形スロッシングに関する数値的研究
- ◆ 小岩立丈 浮体式交差軸風車に作用する風荷重に関する基礎的研究
- ◆ 高野大輝 大変形理論による浮体の水平運動に依存する水中弾性管の運動応答解析
- ◆ 佐藤拓己 高レイノルズ数域における円柱の流体力振動に関する数値的研究
- ◆ 嶋山宇晶 大規模災害時における避難者数の推計に関する基礎的研究
- ◆ 鈴木湧大 弾性係留システムの設定パラメータの選定に関する基礎的研究
- ◆ 成松青空 浮体式垂直軸型風車に作用する風荷重の推定に関する基礎的研究

卒業論文

- ◆ 池田大悟 円筒形タンク内の液面動揺に関する非線形解析
- ◆ 金田良宣 微小変形理論による浮体の水平動揺に基づくライザー管の運動応答解析
- ◆ 韓吉爽・山本桂衣 浮体式交差軸風車に作用する風荷重特性把握に関する基礎的研究
- ◆ 佐藤哲哉 津波被災想定地域における避難者数の推計に関する基礎的研究
- ◆ 宮崎涼・渡邊マイルズ 弾性係留索の初期伸び率に関する基礎的研究
- ◆ 森口翔登・山本海周 浮体式垂直軸型洋上風力発電施設に作用する風荷重の推定
- ◆ 中島啓貴・野村幸生 浮体式構造物が設置された閉鎖水域のスロッシング解析

北嶋研究室

修士論文

- ◆ 加藤百華 間柱型ダンパーを設置した鋼構造物の制震効果に関する研究
～梁の変形を考慮したダンパー降伏時層間変形角の推定
- ◆ 黒沼亜美 滑り基礎構造物の2方向振動台実験
- ◆ 黒川葵 黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造物の地震応答性状に関する研究
～基礎板の加速度上昇要因と浮上り挙動の検討

卒業論文

- ◆ 秋場大河・関祥汰 中鋼管降伏タイプの折返しブレースの構造特性に関する研究
～その1 実験概要
～その2 実験結果
- ◆ 池村航大・山下雅人 剛性または質量偏心している滑り基礎構造物の2方向振動台実験
～その1 試験体概要および実験概要
～その2 実験結果
- ◆ 江口琢菜 観測加速度記録に基づく RC 構造物の応急危険度判定法の適用性に関する研究
～大型振動台 (E-ディフェンス) による実大実験結果を用いた検討
- ◆ 大倉駿平・寺岡大輝 上部構造が剛体および弾性体の滑り基礎構造物の浮上り挙動に関する実験的研究
～その1 実験概要および実験結果
～その2 浮上り挙動の検討
- ◆ 志藤穂乃 間柱型ダンパーを設置した鋼構造物の制震効果に関する研究
～周辺部材の変形の影響によるダンパー降伏層間変位の検討
- ◆ 平田悠樹 最下階に制震室を有する次世代制震構造物の設計スタディー
- ◆ 浅倉綾乃・鈴木紗矢香 大型物流倉庫に用いられる軽量鋼製下地間仕切壁の動的加振実験
～その1 試験体および実験の概要
～その2 実験結果

福井研究室

修士論文

- ◆ 小川智輝 アンボンド PCaPC 部材の応力伝達に及ぼすシアスパン比とせん断補強筋比の影響
- ◆ 奥祐太郎 プレキャスト PC 梁部材の応力伝達機構に及ぼす軸方向鋼材付着の影響
- ◆ 増田雄太 アンボンド PCaPC 十字形接合部のせん断耐力評価式の提案

卒業論文

- ◆ 大島雅史・陳志冲・金澤終大・小林駿太 アンボンド PCaPC 梁の地震後における長期性能に関する実験的研究
～その1 実験概要
～その2、～その3 実験結果
- ◆ 齊木はな・田原拓実・古川雄一朗 浜松町駅旅客ホーム上家の柱部材に関する調査
～その1 建物概要および設計概要
～その2 試験体概要および調査結果
～その3 実験概要及び実験結果
- ◆ 菅谷彩・戸張陽香 PCaPC 柱の圧着継目の滑りせん断耐力に関する解析
～その1 解析結果
～その2 解析結果
- ◆ 鈴木涼介 ヒンジが生じる PC 骨組の地震後の継続使用性の評価に関する解析的研究
- ◆ 中村綺乃・林凜子 トラス機構耐力の残余分に曲げ耐力を用いた PCaPC 有孔梁のせん断耐力の有効性
～その1 耐力算定式の適用範囲
～その2 開口部弦材の耐力算定式

高橋研究室

卒業論文

- ◆ 三瓶悠真・王珂・川越標 壁脚部のみに水平スリットを有する袖壁付き柱に関する研究
～その1 研究計画及び実験概要
～その2 実験結果
～その3 一貫構造計算による解析結果
- ◆ 木村恵・関原陸人・河合智哉 プレキャスト工法における柱梁接合部内の柱主筋の付着性状に関する実験的研究
～その1 シース管とコンクリートの付着試験
～その2 異形鉄筋とコンクリートの付着実験
- ◆ 園部龍星・宇賀神将・友枝一馬 キャンチレバー屋根の地震時応答性状に関する基礎的研究
～その1 建物モデル概要及び固有値解析
～その2 時刻歴応答解析
- ◆ 小泉善・内藤隼汰・山村龍斗 多層木質ラーメン構造の応答性状に関する研究
～その1 文献調査による解析モデルの決定
～その2 建物および解析モデル概要
～その3 解析概要および解析結果

星上研究室

修士論文

- ◆ 押見青幹 UAV 写真測量における地形計測精度を補正する画像処理法の開発
- ◆ 高須健巨 津波自主避難計画の普及促進に関する研究

卒業論文

- ◆ 今井翔・袈裟丸椋 UAV を活用した海食崖の侵食過程に関する研究
～その1、～その2
- ◆ 郭士誠・馬淵吉聖 津波自主避難計画の実践に関する研究
～その1、～その2
- ◆ 金子昌樹・山田圭亮 江東区南部地区を活用した大規模水害時の避難計画に関する研究
～その1、～その2
- ◆ 長島怜治・堀江辰海 海浜におけるマイクロプラスチックの分布状況に関する研究
～その1、～その2

沿岸域工学研究室 (野志・小林)

修士論文

- ◆ 石井優気 海浜砂丘上の植生を考慮した海浜地形変化モデルの構築に関する研究
- ◆ 中田祐希 河口閉塞機構を考慮した海浜変形予測モデルの構築に関する研究
- ◆ 林正太 粒径毎のバーム高および波による地形変化の限界水深の解明に関する研究
- ◆ 三田周平 海浜における漂着ゴミの堆積位置予測モデルの開発に関する研究

卒業論文

- ◆ 朝倉拓海 波の作用下に対する牡蠣殻の挙動および牡蠣殻の水質浄化機能
- ◆ 石田陽輝 CADMAS-SURF の整合性の検証およびチューニング方法についての研究
- ◆ 伊東まや 漁港建設に伴う港内堆砂の防止及び海岸浸食の改善方法について
- ◆ 藤田一輝 飛砂による海岸線の砂堆積量及び海岸線規模の検討
- ◆ 生田目留偉 津波・高潮の被害を受ける海岸と生物及び水質に関する関係性について
- ◆ 水越憶 漂着軽石のゼオライト化に関する実験と水質調査
- ◆ 朝井竜生 海洋プラスチックゴミの削減

教員研究業績 研究室活動業績

小林研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆長谷部悠：輝く文化の断片 陰影による日本文化の結合、2022年度日本建築学会大会（北海道）建築デザイン発表会、2022.9.
- ◆齋藤瞬汰：硝子による再構築 空き家の公共的建築化で喪失する文化の保存の提案、2022年度日本建築学会大会（北海道）建築デザイン発表会、2022.9.
- ◆小林真子：谷に繰り出す 渋谷駅周辺の新たな都市動線と地下空間の提案、2022年度日本建築学会大会（北海道）建築デザイン発表会、2022.9.
- ◆佐藤満秀：花がもっと身近なものに、2022年度日本建築学会大会（北海道）建築デザイン発表会、2022.9.
- ◆渡邊愛：想像と創造による実験的建築 廃墟と足場を用いた子供の遊び場の提案、2022年度日本建築学会大会（北海道）建築デザイン発表会、2022.9.
- ◆伊東龍哉：生物模倣駐車場 超車社会における生物構造を活用した駐車場の提案、2022年度日本建築学会大会（北海道）建築デザイン発表会、2022.9.
- ◆佐藤大和：魅せる農業 郊外の農業に代わる都市での新しい農業施設の提案、2022年度日本建築学会大会（北海道）建築デザイン発表会、2022.9.

著書・執筆等

- ◆間田真矢+小林直明研究室：交流拠点 タッグで内装リノベ 江津高校と日大大学院生 有福温泉活性化へ、山陰中央新報新聞、2022.06.23.

所属学生の受賞等

- ◆小林真子：第34回千葉県建築学生賞 優秀賞、未成熟の遺産、千葉県建築家協会、日本建築学会、千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会、2022.3.
- ◆梅澤秀太：審査員特別賞、国際コンペ The 12th Virtual Design World Cup 第12回 学生BIM&VRデザインワールドカップ、フォーラムエイト、2022.11.

学外活動（講演・講義等）

- ◆小林直明研究室+archi-office k+en 設計事務所：S研究所プロポーザル、construction management、2022.12.

学外活動（委員会活動等）

- ◆小林直明：日本建築学会・歴史的な大規模木造宿泊施設の計画検討小委員会 委員

佐藤研究室

審査付論文

- ◆Shinji Sato1 and Ryo Deyama: FLOATING AUTOMATED FACTORY SYSTEM FOR EFFECTIVE UTILIZATION OF SEABED RESOURCES AND REDUCTION OF GREENHOUSE GAS EMISSIONS, International Journal of GEOMATE Vol.23, Issue 96, pp.163-170, Aug 2022
- ◆Shinji Sato1 and Kai Nagatomi: PROPOSAL FOR A FLOATING OFFSHORE BASE FOR DISASTER PREVENTION AND MULTIPURPOSE USE, International Journal of GEOMATE Vol.24, Issue 101, pp.134-142 (2023), January 2023

口頭発表・ポスター発表

- ◆Shinji Sato and Kai Nagatomi: PROPOSAL OF A FLOATING OFFSHORE BASE FOR DISASTER PREVENTION AND MULTIPURPOSE USE, The GEOMATE International Conference2022Bangkok, pp.009, The GEOMATE International Conference2022 Program.
- ◆藤田大輝、佐藤信治：複合化する自然災害に適応する浮体式架橋および発着場の提案、日本建築学会大会（北海道）学術講演会梗概集 pp.28-29, 2022.9.
- ◆関亮太、佐藤信治：新陳代謝 環境装置を挿入した更新の提案、日本建築学会大会（北海道）学術講演会梗概集 pp.44-245, 2022.9.
- ◆太田優人、佐藤信治：盛る新橋「郷山」 新橋駅周辺再開発の提案、日本建築学会大会（北海道）学術講演会梗概集 pp.86-289, 2022.9.
- ◆中村正基、佐藤信治：防災機能を持った駅舎の提案、日本建築学会大会（北海道）学術講演会梗概集 pp.156-157, 2022.9.
- ◆神林慶彦、佐藤信治：横浜の水上下バスターミナル計画、日本建築学会大会（北海道）学術講演会梗概集 pp.166-167, 2022.9.
- ◆小林功基、佐藤信治：知覚と創造 機能と形態の逆転による空間の提案、日本建築学会大会（北海道）学術講演会梗概集 pp.192-193, 2022.9.
- ◆佐藤信治、神林慶彦：横浜の水上下バスターミナル計画、第66回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.495-496, 2022.12.
- ◆佐藤信治、中村正基：防災機能を持った駅舎の提案、第66回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.497-498, 2022.12.
- ◆佐藤信治、関亮太：洋上水素供給拠点の設計 シンガポール沖合におけるリゾート旅館を備えた水素拠点の提案、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.499-500, 2022.12.
- ◆佐藤信治、柴崎海奈：理工学部学術講演会予稿原稿執筆要領 タマゾン水族園「タマゾン川」へ対応する水族園の提案、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.501-502, 2022.12.
- ◆佐藤信治、山田莉央：都市型農業 都心の新たな農地、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.503-504, 2022.12.

- ◆佐藤信治、太田優人：水害浸水対応型住宅の提案 河川の日常的利用を促す住宅街の設計、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.505-506, 2022.12.
- ◆佐藤信治、尾沢圭太：防災施設としての機能を持つ大仏殿の設計 観光地における災害対策施設の計画、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.507-508, 2022.12.
- ◆佐藤信治、池沢友真：音と駅 少子高齢化による過疎化を阻止し、景観や文化を守るための施設の提案、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.509-510, 2022.12.
- ◆佐藤信治、法橋礼歩：銭湯の再インフラストラクチャー化計画、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.511-512, 2022.12.
- ◆佐藤信治、西辻優世：参道の高低差を利用した建築の提案 琴平町の階段を観光資源にする計画、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.513-514, 2022.12.
- ◆佐藤信治、任晴雯：北茨村新漁村活性化プロジェクト、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.515-516, 2022.12.
- ◆佐藤信治、藤巻拓也：丸の内上空に癒しを基本とした施設の提案、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.517-518, 2022.12.
- ◆佐藤信治、石黒敬太：大通公園に建つ「雪を纏う建築」の提案、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.519-520, 2022.12.
- ◆佐藤信治、安藤大翔：首都機能移転による災害対策と都市環境の再整備の提案、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.521-522, 2022.12.
- ◆佐藤信治、小林功基：水中遺跡の保存と活用を基本とした施設の提案、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.523-524, 2022.12.
- ◆佐藤信治、川内俊太郎：埼玉県秩父市における観光施設の設計 一菱石灰工業生川工場を活用した建築の提案一、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.525-526, 2022.12.
- ◆佐藤信治、藤田大輝：東京都の河川氾濫時に対応した浮体式架橋および発着場の提案、第66回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.527-528, 2022.12.
- ◆佐藤信治、川久保智康、林大輝：レーザー測量器による丸の内仲通りの空間測量その1：点群データから立面図の作成について、第66回日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.455-456, 2022.12.
- ◆佐藤信治、川久保智康、林大輝：レーザー測量器による千代田区丸の内仲通りの空間測量その2：点群データから得られた立面データの解析について、第66回日本大学理工学部学術講演会 建築計画系部会 pp.457-458, 2022.12.
- ◆松井良太、佐藤信治：住宅街の秩序の小さな崩壊のデザインについて ありのままの生命活動を受け入れる街へ、第66回日本大学理工学部学術講演会 都市・交通計画部会 pp.220-221, 2022.12.

教員研究業績 研究室活動業績

—— 著書・執筆等 ——

- ◆ 編者：海洋建築デザイン教材研究会 著者：佐藤信治、他 5 名と共著、新訂増補版 空間デザインを学ぶ 楠 DTP 出版、2022.9.12.

—— 作品等 ——

- ◆ 佐藤信治、熊工房鶴田伸介、筒井紀博空間工房：横浜市山下埠頭及び N 地区計画 デザインアンドデベロップメント 2022.

—— 所属学生の受賞等 ——

- ◆ 桜井彩音：建築系大学住宅課題優秀作品展作品展示：水と共に生きる集合住宅、第 22 回住宅課題賞 2022、東京建築士会他、2022.7.14～8.02.
- ◆ 富永玲央：奨励賞、浮揚する大地、VectorWorks 学生作品コンテスト - A&A、2022.9.1.
- ◆ Group2 ラウテモオ 神林慶彦他 4 名：奨励賞、建築学生ワークショップ 宮島 2022 (Architectural Workshop MIYAJIMA2022)、主 催 :Art & Architect Festa、2022.5.20～8.29.
- ◆ Group3 流 法橋礼歩他 4 名：特別賞、建築学生ワークショップ宮島 2022 (Architectural Workshop MIYAJIMA2022)、主 催 :Art & Architect Festa、2022.5.20～8.29.
- ◆ 法橋礼歩：100 選、水族館 タイトル「井の中の蛙」、建築学縁祭 2021 主 催：総合資格学院
- ◆ 法橋礼歩、安藤大翔、尾沢圭太：Best Selection Award「縫って繋がり掛けて出会う」 World Architecture Student Award 2022 主 催 :Zenkoku Kenkomi .JAPAN

—— 学外活動（講演・講義等） ——

- ◆ 佐藤信治：登録文化財の活用を考える、秋田県羽後町、2022.11.29.
- ◆ 佐藤 信 治：「BLUE HUNTER ART COMPETITION AWARD 2022」の

審査結果発表・講評・全体講習会、日本財団主催「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環によるコンペ、「未知の海洋生物部門」「未来の船舶・移動手段部門」「未来の風景：建築部門」「BLUE HUNTER（新キャラ）部門」「ハンターアイテム部門」の 5 部門、東京・原宿クエストホール、2022.12.18.

- ◆ 佐藤信治：秋田産業サポータークラブ講演会、地域連携観光ワーキング年次報告会、秋田県主催、2023.2.7.
- ◆ 佐藤信治：秋田産業サポータークラブ講演会、秋田杉活用ワーキング年次報告会、秋田県主催、2023.2.7.

—— 学外活動（委員会活動等） ——

- ◆ ㈱日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会 委員
- ◆ ㈱日本建築学会 JABEE 学部課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆ ㈱日本建築学会 JABEE 修士課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆ ㈱東京建築士会
- ◆ 千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会 委員
- ◆ 千葉県建築学生賞 運営委員会 委員
- ◆ 秋田産業サポータークラブ 幹事
- ◆ 秋田産業サポータークラブ 地域連携観光ワーキング 主査
- ◆ 秋田産業サポータークラブ 秋田杉活用ワーキング 主査
- ◆ ㈱海洋環境創生機構運営委員会 委員
- ◆ 秋田県能代市 産業振興アドバイザー
- ◆ 秋田県 登録文化財所有者の会 幹事

山本研究室

—— 口頭発表・ポスター発表 ——

- ◆ 鹿志村隼多、山本和清、宮崎渉：放置艇問題及びボートパークの実態把握に関する研究、日本建築学会大会（北海道）学術講演概要集 pp.41-42、2022.9.
- ◆ 長坂建志、山本和清：商業捕鯨再開による地域活性化に関する研究、第 66 回日本大学工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.539-540、2022.12.
- ◆ 谷田部美依奈、山本和清：水害危険地帯である江東 5 区における在宅障害者の水害避難計画に関する研究、第 66 回日本大学工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.541-542、2022.12.
- ◆ 道下匠、山本和清：水産高校における地域との連携教育と新規漁業就業者の関係性に関する研究—全国 45 校の水産高校を対象として—、第 66 回日本大学工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.543-544、2022.12.
- ◆ 竹井真登、山本和清：日本海溝・千島海溝地震災害時における早期避難計画に関する研究—陸奥湾に面する 7 市町村を対象として—、第 66 回日本大学

理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.545-546、2022.12.

- ◆ 野口凜太郎、山本和清：外国人滞在者と地域住民の共助に関する研究、第 66 回日本大学工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.547-548、2022.12.

—— 学外活動（委員会活動等） ——

- ◆ 東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆ (一社) 日本建築学会・海洋建築委員会 津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆ (一社) 日本建築学会 2022 年度大会(北海道)学術講演会「安全・防災・避難計画」セッション 座長
- ◆ 千葉県館山市・たてやま海まちフェスタ 2022 実行委員会 委員
- ◆ 千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆ 日本大学校門建築会・広報委員会 委員
- ◆ 日本大学工学部校友会・海洋建築部会 常任幹事

教員研究業績 研究室活動業績

ウォーターフロント都市工学研究室（寺口・桜井）

——— 口頭発表・ポスター発表 ———

- ◆寺口敬秀、桜井慎一、越智源太：大規模災害時における市町村間の相互支援連携に関する研究-東北3県と南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域の比較-、土木計画学研究・講演集 Vol.65、講演番号 P134、2022.4.
- ◆小出将貴、桜井慎一、寺口敬秀、丸山奈々葉：海水浴場における津波避難対策に関する研究-年間来場者数10万人以上の海水浴場を対象とした調査-、日本沿岸域学会研究討論会2022講演概要集 No.34、講演番号7-2、2022.4.
- ◆五江洲佑真、桜井慎一、寺口敬秀、小出将貴：小型船舶を活用した災害支援に関する研究-東京湾における孤立化危険地域と海の駅の現状-、日本沿岸域学会研究討論会2022講演概要集 No.34、講演番号7-3、2022.4.
- ◆山田匠人、桜井慎一、寺口敬秀、樋口黎：ウォーターフロントの特性に配慮した公衆トイレの整備実態に関する研究-東京湾における孤立化危険地域と海の駅の現状-、日本沿岸域学会研究討論会2022講演概要集 No.34、講演番号9-2、2022.4.
- ◆佐藤友香、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：漁港空間の多目的利用に関する研究-岩手県の漁協・漁港を対象とした調査-、日本沿岸域学会研究討論会2022講演概要集 No.34、講演番号9-4、2022.4.
- ◆渡部颯将、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：津波・高潮による浸水が想定される地域に立地する避難所に関する研究-東京湾沿岸を対象として-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.21-22、2022.7.
- ◆桜井慎一、寺口敬秀、小出将貴：津波避難シェルターの整備実態に関する研究-全国の実態事例および製造会社-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.23-24、2022.7.
- ◆今江啓太、桜井慎一、寺口敬秀、五江洲佑真：海洋教育を実施している施設の実態把握に関する研究-海洋教育情報プラットフォーム掲載施設を対象として-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.27-28、2022.7.
- ◆阿部拓真、桜井慎一、寺口敬秀、小出将貴：スポーツスタジアムの防災貢献に関する研究-水災害への対応等に関する考察-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.29-30、2022.7.
- ◆五江洲佑真、桜井慎一、寺口敬秀、小出将貴：小型船舶を活用した災害支援に関する研究-東京湾内の災害拠点に適した海の駅の実態把握-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.31-32、2022.7.
- ◆野々下桃花、桜井慎一、寺口敬秀、五江洲佑真：小型船舶を活用した災害支援に関する研究-隅田川親水テラスを対象として-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.33-34、2022.7.
- ◆嶋田健太、桜井慎一、寺口敬秀、佐藤友香：親水テラスのデザインの分節化と統一化に関する研究-隅田川親水テラスを対象として-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.43-44、2022.7.
- ◆市川忠樹、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：河川および水路における開渠化と二層化に関する研究-年数経過による現状や維持管理体制の変化について-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.45-46、2022.7.
- ◆小出将貴、桜井慎一、寺口敬秀：港付近に展開している朝市の活性化に関する研究-朝市運営者に対するアンケート調査結果-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.47-48、2022.7.
- ◆山田匠人、桜井慎一、寺口敬秀：温泉地における水辺空間整備に関する研究、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.49-50、2022.7.
- ◆寺口敬秀、桜井慎一、山田匠人：わが国におけるブルーフラッグ認証ビーチの整備実態に関する研究-認証団体および認証ビーチを対象とした調査-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.51-52、2022.7.
- ◆佐藤友香、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：漁港空間の多目的利用に関する研究-三陸沿岸の漁協に対するアンケート結果-、日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集2022（海洋建築）、pp.53-54、2022.7.
- ◆恵藤浩明、星上幸良、野志保仁、相田康洋、寺口敬秀、大塚文和：オンライン動画教材を活用した海洋実習の実践、工学教育研究講演会講演論文集第70回年次大会（2022年度）、2022.9.
- ◆小出将貴、桜井慎一、寺口敬秀：港湾空間の一般開放に関する研究-釣り文化振興モデル港に対するアンケート調査-、令和4年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.549-550、2022.12.
- ◆五江洲佑真、桜井慎一、寺口敬秀：小型船舶を活用した災害支援に関する研究-東海・

近畿地方太平洋沿岸における孤立化危険地域の抽出-、令和4年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.551-552、2022.12.

- ◆山田匠人、桜井慎一、寺口敬秀：ウォーターフロントの特性を活かしたサイクリング空間整備に関する研究-ウォーターフロントで活動を行っているNPO団体を対象として-、令和4年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.553-554、2022.12.
- ◆今江啓太、桜井慎一、寺口敬秀、五江洲佑真：ライフジャケット着用の普及促進に関する研究-逗子海水浴場のライフジャケットレンタルステーションを対象として-、令和4年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.555-556、2022.12.
- ◆阿部拓真、桜井慎一、寺口敬秀、小出将貴：都市の水災害対策における容積率緩和制度に関する研究-政令指定都市および中核市に対するアンケート調査結果-、令和4年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.557-558、2022.12.

——— 著書・執筆等 ———

- ◆寺口敬秀：建築と社会、特集・海と建築、「海洋建築物に関連する法制度について」、日本建築協会、2022.10.
- ◆桜井慎一：建築と社会、特集・海と建築、「総論 海の特性を活かした海洋建築物の変遷」、日本建築協会、2022.10.

——— 所属学生の受賞等 ———

- ◆小出将貴：日本沿岸域学会研究討論会優秀講演表彰、海水浴場における津波避難対策に関する研究-年間来場者数10万人以上の海水浴場を対象とした調査-、日本沿岸域学会、2022.10.
- ◆野々下桃花：2022年度日本建築学会大会（北海道）海洋建築委員会若手優秀発表賞、小型船舶を活用した災害支援に関する研究-瀬戸内海の海の駅を対象とした調査-、日本建築学会、2022.11.

——— 学外活動（講演・講義等） ———

- ◆桜井慎一：「洋上風力発電への建築の関わりとその課題」主旨説明、日本建築学会大会（北海道）海洋建築部門研究協議会、2022.9.

——— 学外活動（委員会活動等） ———

- ◆寺口敬秀：日本建築学会・卒業論文等顕彰事業委員会 委員
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・海洋エネルギー支援施設小委員会 幹事
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員
- ◆寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会・津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆寺口敬秀：WCFS2023JAPAN 実行委員会 委員
- ◆桜井慎一：船橋市開発審査会 会長
- ◆桜井慎一：船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会 委員
- ◆桜井慎一：館山市建設工事総合評価委員
- ◆桜井慎一：国土交通省関東運輸局・海の駅防災事業ワーキンググループ 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・学術推進委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員長
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築委員会・津波避難シェルター小委員会 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築委員会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員
- ◆桜井慎一：日本建築学会・技術報告集委員会 委員

——— 研究助成・受託研究 ———

- ◆寺口敬秀：研究奨励寄付金、漁港漁場漁村総合研究所、三陸沿岸の漁港ストックと水上飛行機を活用した「水産観光」の整備に関する研究
- ◆寺口敬秀：研究奨励寄付金、大林財団、避難困難地区における水害避難シェルター整備に関する研究
- ◆桜井慎一：科学研究費・基盤研究（C）、東日本におけるクルーズ観光活性化のための新たな寄港地選定と誘致方策の検討

居駒・相田研究室

審査付論文

- ◆藤島健英、居駒知樹、相田康洋：ムーンプールを有するポンツーン型浮体の動揺低減効果に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学会論文集、第36号、pp.25-30、2022.12.
- ◆Tomoki Ikoma, Katsuhide Fujishima, Yasuhiro Aida, Tan Lei and Koichi Masuda, "Motion Characteristics of a Floating Model with Moonpools for VAWTs," Proceedings of the 42th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2022), ASME, 2022.6.
- ◆Masahiro Suzuki, Tomoki Ikoma, Chang-Kyu Rheem and Yasuhiro Aida, "Experimental Investigation of Roughness Effect on Flow Field Around Cylinder in Steady Flow," Proceedings of the 42th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2022), ASME, 2022.6.
- ◆畔柳昭雄、相田康洋、増田光一：厳島神社の海上への社殿建立に関する調査研究 厳島神社の廻廊の配置および構造に関する考察、日本建築学会計画系論文集(87巻796号)、966-974

口頭発表・ポスター発表

- ◆Tomoki Ikoma, Airi Kuwata, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "Variation of the Primary Conversion Performance of Fixed PW-OWC Type WECs by Installation Conditions," Grand Renewable Energy 2022 International Conference, 100508, 2022.12.
- ◆寺崎哉人、居駒知樹、相田康洋：粒子で構成した梁の一次モード自由振動についての考察、日本沿岸域学会研究討論会、2022年度講演概要集、No.34, file 19-2, 2022.7.
- ◆鈴木雅洋、居駒知樹、林昌奎、相田康洋：円柱の回転数増加に伴うVIV特性の変化について、日本沿岸域学会研究討論会、2022年度講演概要集、No.34, file 19-3, 2022.7.
- ◆武川芽生、居駒知樹、相田康洋：津波漂流物の衝突荷重に与える流体力の影響に関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2022年度講演概要集、No.34, file 4-3, 2022.7.
- ◆茂筑雄大、居駒知樹、相田康洋：2点波なし形状の流体力と運動応答についての考察、日本沿岸域学会研究討論会、2022年度講演概要集、No.34, file 4-1, 2022.7.
- ◆桑田愛理、居駒知樹、相田康洋：海面に固定されたPW-OWC型波力発電装置の一次変換特性に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会、2022年度講演概要集、No.34, file 13-4, 2022.7.
- ◆福永勇太、居駒知樹、相田康洋：粒子法を用いた浮体式垂直軸型風車の静水中における運動のモデル化について、日本沿岸域学会研究討論会、2022年度講演概要集、No.34, file 13-5, 2022.7.
- ◆鹿島瞳、恵藤浩朗、居駒知樹、増田光一：超大型浮体のための弾性係留索の係留諸元選定に関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2022年度講演概要集、No.34, file 4-5, 2022.7.
- ◆桑田愛理、居駒知樹、相田康洋、増田光一：海面に固定されたPW-OWC型波力発電装置の一次変換特性の変化に関する研究、日本建築学会大会(北海道)学術講演会梗概集、10003, 2022.
- ◆野口隆幸、居駒知樹、相田康洋、増田光一：浮体式洋上太陽光発電を目的としたエアクッション型浮体の基本性能に関する基礎的研究、日本建築学会大会(北海道)学術講演会梗概集、10004, 2022.
- ◆福永勇太、居駒知樹、相田康洋、増田光一：垂直軸型ツイン風車を搭載したムーンプールを有するポンツーン型浮体の運動応答特性に関する基礎的研究、日本建築学会大会(北海道)学術講演会梗概集、10008, 2022.
- ◆茂筑雄大、居駒知樹、相田康洋、増田光一：アドバンストスパー型浮体式洋上風力発電における上下揺れの波強制力と波無しについての考察、日本建築学会大会(北海道)学術講演会梗概集、10009, 2022.
- ◆藤島健英、居駒知樹、相田康洋：ムーンプールを有するポンツーン型浮体の同様に低減効果に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学会講演論文集、第34号、2022S-GS8-2, pp.407-410, 2022.5.
- ◆鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：流れ中における回転円柱周りの流量変化に関する実験的研究、日本船舶海洋工学会講演論文集、第35号、

2022.11.

- ◆福永佳晏、鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：PIVによる回転円柱まわりの流れ場の可視化とレイノルズ応力に関する研究、日本船舶海洋工学会講演論文集、第35号、2022.11.

著書・執筆等

- ◆海洋建築研究会：海洋建築シリーズ 海洋建築序説、成山堂書店、2022年7月
- ◆居駒知樹：S-24 海洋構造物のデジタルツイン技術に関するストラテジー委員会(報告)、KANRIN(日本船舶海洋工学会誌)、第107号(掲載予定)、2023年3月
- ◆居駒知樹：わが国の洋上風力発電の取組み、2022年度日本建築学会大会(北海道)海洋建築部門研究協議会資料、日本建築学会海洋建築委員会、2022年9月

所属学生の受賞等

- ◆福永勇太：日本建築学会大会(北海道)学術講演会 海洋建築部門若手優秀発表賞、垂直軸型ツイン風車を搭載したムーンプールを有するポンツーン型浮体の運動応答特性に関する基礎的研究、日本建築学会、2022年9月

学外活動(講演・講義等)

<講演>

- ◆居駒知樹：「海洋エネルギー利用の世界の動向と早崎潮流発電の可能性」早崎瀬戸潮流発電推進研究会主催一般向けセミナー、2023年3月19日
- ◆Tomoki Ikoma, "Development of Pitch-Controlled VAMT for Tidal Current Power Generation," International Seminar on Ocean Energy 2023, 佐賀大学海洋エネルギー研究所、2023年3月9日
- ◆居駒知樹：「日本の洋上風力発電の取組み」JFE スチール特別講演、2023年1月10日
- ◆居駒知樹：「世界と日本の海洋再生可能エネルギー開発」招待講演、電子情報通信学会電磁界理論研究会発表会、2022年11月18日
- ◆居駒知樹：「海のエネルギーを電気に変える：イントロダクション」第78回海洋教育フォーラム(北海道)、2022年12月3日
- ◆居駒知樹：「潮流発電の動向、原理及び今後について」第78回海洋教育フォーラム(北海道)、2022年12月3日
- ◆居駒知樹：「わが国の洋上風力発電の取組み」2022年度日本建築学会大会(北海道)海洋建築部門研究協議会、2022年9月6日

<講義>

- ◆居駒知樹：「早崎瀬戸潮流発電に関するワークショップ」、長崎県立口加高校、2023年3月18日
- ◆居駒知樹：「海洋再生可能エネルギー」第2回特別講義、長崎県立口加高等学校、2022年7月25日
- ◆居駒知樹：「地球温暖化の現状とエネルギー利用の実際」第1回特別講義、長崎県立口加高等学校、2022年7月21日

学外活動(委員会活動等)

<居駒知樹>

- ◆東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
- ◆日本沿岸域学会 副会長、理事
- ◆一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 理事(学術担当)
- ◆日本海洋工学会 理事、運営委員(日本沿岸域学会担当)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会 本委員会委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋エネルギー支援建築小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・フローティング建築小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・研究企画委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学・海洋環境研究企画部会 部会長
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会 委員長
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆テクノ・オーシャン・ネットワーク(TON) 理事
- ◆PACON International, Board member (理事)
- ◆OMAE 2022 & OMAE 2023 Symposium Organizer of Ocean Space Utilization
- ◆ASME, Extended Executive Committee Member of Ocean, Offshore

教員研究業績 研究室活動業績

- and Arctic Engineering (OOAE)
- ◆ WCFS 2023 Organized Committee member, 実行委員会委員長
 - ◆ Techno-Ocean 2023 実行委員会副委員長, Technical Program Committee 委員, Panel Session 4 (洋上風力発電開発) コーディネーター
 - ◆ Renewable Energy 2022 分科会 8 (海洋エネルギー) Co-Readers
 - ◆ IEC TC114 国内委員
 - ◆ IEC TC114 MT 62600-103 - Guidelines for WEC testing, 国際委員
 - ◆ NEDO、特殊な設置形態の太陽光発電設備に関する安全性確保のためのガイドライン策定委員会 委員
 - ◆ NEDO、陸上風力発電設備・ジャッキダウン解体工法 技術委員会 委員長
 - ◆ 日本 ERI 株式会社、建築基準法に基づく建築物構造性能評価委員会 委員
 - ◆ 一般社団法人 みなと総合研究財団 審査委員会 委員
 - ◆ OMAE2026 東京誘致委員会 副委員長
 - ◆ 土木学会 会員
 - ◆ ASME member
 - ◆ IEEE member
 - ◆ 海洋技術フォーラム 幹事

- ◆ 海洋工学懇談会 幹事
 - ◆ 博士論文審査委員 (学外) : 大阪公立大学 (1 件)、The University of Queensland (オーストラリア) (1 件)
- <相田康洋>
- ◆ 日本船舶海洋工学会 海洋工学研究会 委員
 - ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築津波等防災小委員会 委員
 - ◆ 日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
 - ◆ 第 30 回海洋工学シンポジウム (日本沿岸域学会) 実行委員
 - ◆ 沿岸域学会 企画運営委員会 委員
 - ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・津波避難シェルター小委員会 幹事
 - ◆ World Conference on Floating Solutions 実行委員会 実行委員

研究助成・受託研究

- ◆ 居駒知樹：科学研究費補助金・基盤研究 (B)、可変ピッチ機構を導入した垂直軸型風力発電浮体の姿勢制御を含めた概念実証研究
- ◆ 居駒知樹：受託研究、(一財) 港湾空港総合技術センター、DX 時代の海洋・港湾技術の挑戦に関する基礎調査

惠藤研究室

審査付論文

- ◆ 惠藤浩明、高野大輝、居駒知樹、増田光一：SLWR が接続する浮体システムの動的挙動解析、土木学会論文集 B3 (海洋開発) 78(2) p.283-288, 2022.06.
- ◆ 惠藤浩明、鹿島瞳、居駒知樹、増田光一：超大型浮体式構造物のための弾性係留システムの係留設計に関する基礎的研究、土木学会論文集 B3 (海洋開発) 78(2) p.271-276, 2022.06.

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 新宮清志、湯川正貴、平塚聖敏、近藤典夫、入江寿弘、惠藤浩明：我が国におけるシェル・空間構造の減衰評価の現状 (その 1)、第 66 回理論応用力学講演会、2022.06.
- ◆ 鹿島瞳、惠藤浩明、居駒知樹、増田光一：超大型浮体のための弾性係留索の係留諸元選定に関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2022.07.
- ◆ 惠藤浩明、星上幸良、野志仁心、相田康洋、寺口敬秀、大塚文和：オンライン動画教材を活用した海洋実習の実践、第 70 回年次大会・工学教育研究講演会、2022.09.
- ◆ 鈴木湧大、菅原幹将、惠藤浩明：超大型浮体に接続する弾性係留索の諸元の選定方法に関する基礎的研究、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、10001, pp.1-2, 2022.9.
- ◆ 菅原幹将、鈴木湧大、惠藤浩明：弾性係留索により係留された浮体式構造物の居住性評価、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、10002, pp.3-4, 2022.9.
- ◆ 木下龍太郎、惠藤浩明：小型浮体に接続する SCR の規則波中応答特性に関する基礎的研究、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、10005, pp.9-10, 2022.9.
- ◆ 関口峻介、小岩立汰、成松青空、惠藤浩明：ジャケット式海洋構造物の損傷に伴う振動特性変化に関する基礎的研究、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、10010, pp.19-20, 2022.9.
- ◆ 田村直輝、惠藤浩明：東京湾における残存稚魚の成長過程の再現に関する基礎的研究、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、10013, pp.25-26, 2022.9.
- ◆ 塩島宇晶、惠藤浩明：大規模災害時の建物倒壊による重傷者数の算定手法に関する基礎的研究、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、10018, pp.35-36, 2022.9.
- ◆ 佐藤拓己、惠藤浩明、近藤典夫：円柱の流体力学に関する数値解析、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、20097, pp.193-194, 2022.9.
- ◆ 李濟援、惠藤浩明、近藤典夫：短周期地震動を受ける円筒形貯槽タンク内の非線形液面動揺解析、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、20098, pp.195-196, 2022.9.
- ◆ 新宮清志、湯川正貴、平塚聖敏、近藤典夫、入江寿弘、惠藤浩明：シェル・空間構造の減衰研究に関する現状、日本建築学会学術講演梗概集 (北海道)、21107,

pp.213-214, 2022.9.

- ◆ K. SHINGU, M. YUKAWA, K. HIRATSUKA, N. KONDO, T. IRIE, H. ETO : The latest status of research on damping characteristics of shell and spatial structures in Japan, Proceedings of the IASS Annual Symposium 2022 and APCS 2022, 2022.9.
- ◆ 李濟援、惠藤浩明、近藤典夫：円筒タンクの非線形スロッシングに関する数値的研究、第 66 回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度会、B-24, 2022.12.
- ◆ 佐藤拓己、惠藤浩明、近藤典夫：高レイノルズ数域における円柱の流体力学に関する数値的研究、第 66 回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度会、B-25, 2022.12.

著書・執筆等

- ◆ 海洋建築研究会 編著：海洋建築シリーズ 海洋建築序説、成山堂書店、2022.7. (惠藤：2 章 海の空間利用を担当)
- ◆ 惠藤浩明：海洋建築物の施工、日本建築協会 協会誌「建築と社会」、vol.103 No.1207, 2022.10.

学外活動 (講演・講義等)

- ◆ 惠藤浩明：地理情報システム (GIS) を活用した水上施設の適地選定に関する取り組み ～災害時医療支援浮体を例に～、日本エンジニアリング本社移転記念講演会、2022.7.
- ◆ 惠藤浩明：洋上風力発電に関する海洋建築委員会のこれからの取り組み、日本建築学会大会 (北海道)、海洋建築部門研究協議会、2022.9.

学外活動 (委員会活動等)

- ◆ 日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋エネルギー支援建築小委員会 主査
- ◆ 日本建築学会・論文集委員会・部門幹事
- ◆ 日本建築学会・SDGs 対応推進特別調査委員会・委員
- ◆ 日本建築学会・卒業論文等顕彰事業委員会・委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会・構造部会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・東部支部編集委員会 委員
- ◆ 日本沿岸域学会・論文集編集委員会 委員
- ◆ 国際津波防災学会 総務担当役員
- ◆ 東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー

研究助成・受託研究

- ◆ 惠藤浩明：研究奨励寄付金、サンユウシビルエンジニアリング株式会社、浮体式構造物の運動応答及び係留に関する研究

北嶋研究室

審査付論文

- ◆村上航太、高橋孝二、北嶋圭二：制震建物に作用する外力分布を考慮した制震構造設計法、コンクリート工学年次論文集、Vol.44, No.2, pp.43-48, 2022.7.
- ◆國府田有加、波田雅也、北嶋圭二：2方向地震動を受ける滑り基礎構造建物の滑り面の面圧変動の影響および2方向相互作用の影響に関する研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.44, No.2, pp.649-654, 2022.7.

口頭発表・ポスター発表

【日本建築学会大会】

- ◆加藤百華、村上航太、高橋孝二、北嶋圭二、中西三和、安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その10 制震建物に作用する外力分布の検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.401-402, 2022.9.
- ◆村上航太、加藤百華、高橋孝二、北嶋圭二、中西三和、安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その11 層崩壊する建物および立面的不整形な建物への適用検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.403-404, 2022.9.
- ◆波田雅也、北澤龍太郎、村井克綺、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しプレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究（その5 6D円形鋼管芯材の局部座屈挙動と疲労特性）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.969-970, 2022.9.
- ◆北澤龍太郎、波田雅也、村井克綺、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しプレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究（その6 3D試験体と6D試験体の比較および限界変位の検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.971-972, 2022.9.
- ◆奥野陸人、波田雅也、杉山浩隆、北澤龍太郎、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しプレースの疲労特性に関する実験的研究（その1 実験概要および漸増載荷実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.973-974, 2022.9.
- ◆杉山浩隆、波田雅也、奥野陸人、北澤龍太郎、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しプレースの疲労特性に関する実験的研究（その2 一定振幅載荷実験結果と疲労特性の検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.975-976, 2022.9.
- ◆國府田有加、森川葵、波田雅也、北嶋圭二、中西三和、安達洋：滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その4 軸力変動と2方向相互作用の影響）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.641-642, 2022.9.
- ◆黒沼亜美、水橋秀至、小林葵、矢ヶ崎渉真、北嶋圭二、中西三和、安達洋：剛性および重量を偏心させた滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その1 試験体および実験概要）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.633-634, 2022.9.
- ◆水橋秀至、黒沼亜美、小林葵、矢ヶ崎渉真、北嶋圭二、中西三和、安達洋：剛性および重量を偏心させた滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その2 実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.635-636, 2022.9.
- ◆田村拓也、山田遊耶、北嶋圭二、中西三和、安達洋：滑り基礎構造物の転倒限界に関する研究（その1 転倒条件式と試験体および実験概要）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.637-638, 2022.9.
- ◆山田遊耶、田村拓也、北嶋圭二、中西三和、安達洋：滑り基礎構造物の転倒限界に関する研究（その2 実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.639-640, 2022.9.
- ◆松浦昂汰、森川葵、扇谷匠己、北嶋圭二、中西三和、安達洋：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法に関する研究（その1 加速度記録による降伏変位の推定方法）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.359-360, 2022.9.
- ◆扇谷匠己、松浦昂汰、森川葵、北嶋圭二、中西三和、安達洋：観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法に関する研究（その2 振動台実験記録を用いた降伏変位の推定と多層立体骨組解析結果を用いた応急危険度判定）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.361-362, 2022.9.
- ◆山崎信宏、波田雅也、諸沢征治、久保田雅春、川瀬晶子、石渡康弘、山崎康雄、山崎颯太、北嶋圭二：Fe-Mn-Si系合金を用いたレンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その1 研究目的およびFMS合金とLY225の比較）、

日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.529-530, 2022.9.

- ◆山崎颯太、波田雅也、諸沢征治、久保田雅春、川瀬晶子、石渡康弘、山崎康雄、山崎信宏、北嶋圭二：Fe-Mn-Si系合金を用いたレンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その2 FMS合金レンズダンパーの最適レンズ形状）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.531-532, 2022.9.
 - ◆諸沢征治、波田雅也、山崎信宏、久保田雅春、川瀬晶子、石渡康弘、山崎康雄、山崎颯太、北嶋圭二：Fe-Mn-Si系合金を用いたレンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その3 FMS合金レンズダンパーの保有性能）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.533-534, 2022.9.
 - ◆山崎康雄、長瀬優斗、高橋孝二、北嶋圭二：間柱型ダンパーを有する実大建物を模擬した6層鋼構造骨組みの振動台実験（その1 鋼構造骨組みの設計および構造諸元）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.575-576, 2022.9.
 - ◆長瀬優斗、山崎康雄、高橋孝二、北嶋圭二：間柱型ダンパーを有する実大建物を模擬した6層鋼構造骨組みの振動台実験（その2 鋼構造骨組みの振動台実験概要および結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、pp.577-578, 2022.9.
- 【理工学部学術講演会】
- ◆森川葵、北嶋圭二、中西三和、安達洋：中層滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究、令和4年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-8, pp.28-29, 2022.12.
 - ◆加藤百華、山崎颯太、高橋孝二、北嶋圭二：間柱型鋼材ダンパーを設置した制震構造建物の設計法に関する研究 一梁の曲げ変形の影響によるダンパー降伏時の層間変位の検討一、令和4年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-9, pp.30-31, 2022.12.
 - ◆水橋秀至、黒沼亜美、北嶋圭二、中西三和、安達洋：剛性および重量を偏心させた滑り基礎構造建物の2方向振動台実験、令和4年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-10, pp.32-33, 2022.12.

著書・執筆等

- ◆北嶋圭二：特集 海と建築：「海洋建築物の設計 ～構造的観点から～」、日本建築協会、社会と建築、Vol.103, No.1207, pp.20-21, 2022.10.

所属学生の受賞等

- ◆奥野陸人：折返しプレースの疲労特性に関する実験的研究（その1 実験概要および漸増載荷実験結果）、2022年度日本建築学会大会（北海道）若手優秀発表賞（構造部門（鋼構造分野））
- ◆加藤百華：間柱型鋼材ダンパーを設置した制震構造建物の設計法に関する研究 一梁の曲げ変形の影響によるダンパー降伏時の層間変位の検討一、令和4年度日本大学理工学部学術講演会 優秀発表賞（構造・強度部門）

学外活動（講演・講義等）

- ◆北嶋圭二：第六回 バッシブ制振構造の設計・計算講習会、日本免震構造協会、2023.9-10（講師）

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会：鉄筋コンクリート構造運営委員会（委員）
- ◆日本建築学会：既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会（幹事）
- ◆日本建築学会：既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会：評価例作成WG（主査）
- ◆日本建築学会：海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部：地震災害調査連絡会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部：講習会用構造テキスト委員会：免震制振構造の設計改訂WG（委員）
- ◆日本建築学会関東支部：講習会用構造テキスト委員会：耐震構造の設計改訂WG（委員）
- ◆日本免震構造協会：審議員
- ◆日本免震構造協会：技術委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会：制震部材品質基準小委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会：修士論文賞審査委員会（委員長）
- ◆日本沿岸域学会 理事

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆日本沿岸学会 論文集編集委員会 (委員)
- ◆ハウスプラス確認検査・高層評定委員会 (委員)
- ◆ハウスプラス確認検査・耐震診断・耐震改修等評定委員会 (副委員長)
- ◆日本建築検査協会・高層評定委員会 (委員)
- ◆日本建築検査協会・耐震評定委員会 (委員)
- ◆日本建築検査協会・指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会 (委員)
- ◆構造調査コンサルティング協会・構造物評定委員会 (委員)

研究助成・受託研究

- ◆委託研究：青木あすなろ建設株式会社、合理的な耐震構造システムに関する研究開発

- ◆委託研究：西松建設株式会社、強震観測に基づく建物の振動特性評価と健全性判定支援システムに関する研究 (令和4年度)
- ◆委託研究：西松建設株式会社、間仕切壁の面外方向動的性能確認実験 (令和4年度)
- ◆研究奨励寄付金：株式会社長谷工コーポレーション、構造ヘルスマonitoringに関する研究
- ◆研究奨励寄付金：株式会社巴技研、住宅基礎の合理化に関する研究

福井研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆宮原椋一、奥祐太郎、小池正大、福井剛、浜原正行：アンボンドPCaPC梁部材の破壊過程とせん断抵抗機構に関する実験的研究 その1 実験概要、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集、pp.621-622, 2022.7.
- ◆奥祐太郎、宮原椋一、小池正大、福井剛、浜原正行：アンボンドPCaPC梁部材の破壊過程とせん断抵抗機構に関する実験的研究 その2 実験結果、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集、pp.623-624, 2022.7.
- ◆大塚夕、深谷勇介、増田雄太、姜建毅、福井剛、浜原正行：鉛直荷重を受けるPC骨組の地震後たわみ評価手法 その1 解析概要及び降伏機構の判別、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集、pp.667-668, 2022.7.
- ◆増田雄太、大塚夕、深谷勇介、姜建毅、福井剛、浜原正行：鉛直荷重を受けるPC骨組の地震後たわみ評価手法 その2 解析結果及び梁中央たわみ推定式、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集、pp.669-670, 2022.7.
- ◆深谷勇介、大塚夕、増田雄太、姜建毅、福井剛、浜原正行：鉛直荷重を受けるPC骨組の地震後たわみ評価手法 その3 補強設計の提案、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集、pp.671-672, 2022.7.
- ◆小池正大、増田雄太、奥祐太郎、福井剛：アンボンドプレキャストPC部材のせん断抵抗機構に関する解析的研究：その1 解析概要、第66回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会、pp.34-35, 2022.12.
- ◆小池正大、増田雄太、奥祐太郎、福井剛：アンボンドプレキャストPC部材のせん断抵抗機構に関する解析的研究：その2 圧縮側コンクリートの応力に対する検討、第66回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会、pp.36-37, 2022.12.
- ◆小池正大、増田雄太、奥祐太郎、福井剛：アンボンドプレキャストPC部材のせん断抵抗機構に関する解析的研究：その3 解析結果、第66回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会、pp.38-39, 2022.12.
- ◆周鵬、小川智輝、福井剛：アンボンドPCaPC部材の応力伝達機構に及ぼすシアスパン比に関する解析的研究：その1 解析概要、第66回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会、pp.40-41, 2022.12.
- ◆周鵬、小川智輝、福井剛：アンボンドPCaPC部材の応力伝達機構に及ぼすシアスパン比の影響に関する解析的研究：その2 解析結果、第66回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会、pp.42-43, 2022.12.
- ◆齊木はな、古川雄一朗、田原拓実、福井剛：浜松町駅旅客ホーム上家調査における柱部材の荷重実験：その1 実験概要、第66回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会、pp.44-45, 2022.12.
- ◆古川雄一朗、齊木はな、田原拓実、福井剛：浜松町駅旅客ホーム上家調査における柱部材の荷重実験：その2 実験結果、第66回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会、pp.46-47, 2022.12.

学外活動 (講演・講義等)

- ◆福井剛、森田明、榮前田英樹、清水隆、片江弘、鱈沢曜：プレストレストコンクリート構造の設計—学びやすい構造設計、日本建築学会関東支部改訂図書講習会、2022.5.
- ◆福井剛、森田明、榮前田英樹、今村雅泰、小田将太郎、鳥屋隆志：プレストレストコンクリート構造の設計勉強会、日本建築構造技術者協会北海道支部、2022.9.2.
- ◆福井剛、森田明、榮前田英樹、高橋孝二、鱈沢曜：プレストレストコンクリート構造の設計勉強会、日本建築構造技術者協会九州支部、2022.11.25.

学外活動 (委員会活動等)

- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート規程指針小委員会 委員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計小委員会 主査
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工WG 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 プレストレストコンクリート建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会 幹事
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC 構造の設計改定WG 主査
- ◆プレストレストコンクリート工学会 浜松町駅旅客ホーム上家調査委員会 委員長
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・PC鋼材委員会 委員
- ◆日本ERI・建築基準法に基づく構造性能評価委員会 委員

研究助成・受託研究

- ◆福井剛：研究奨励寄付金、オリエンタル白石株式会社、PC部材のせん断抵抗機構に関する解析的研究
- ◆福井剛：研究奨励寄付金、株式会社フジタ、高耐久・高耐力なコンクリート構造建築の開発
- ◆福井剛：受託研究、株式会社三菱地所設計、二重床PC合成床板の開発

高橋研究室

審査付論文

- ◆村上航太、高橋孝二、北嶋圭二：制震建物に作用する外力分布を考慮した制震構造設計法 コンクリート工学年次論文集 44巻2号 pp.43-48, 2022.7.
- ◆郡司康浩、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有するRC袖壁付き柱の静的加力実験 コンクリート工学年次論文集 44巻2号 pp.373-378, 2022.7.

口頭発表・ポスター発表

- ◆金川基、赤井冬木、小寺直幸、飯塚信一、高橋孝二、安田稜太、丸田誠、田村彰教：梁端部に開孔を有するヒンジロケーション接合部に関する研究 (その4) 片持ち梁型曲げ追加実験の概要、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.263-264, 2022.9.
- ◆安田稜太、赤井冬木、小寺直幸、金川基、飯塚信一、高橋孝二、丸田誠、田村彰教：

教員研究業績 研究室活動業績

梁端部に開孔を有するヒンジロケーション接合部に関する研究 (その5) 片持ち梁型曲げ追加実験の結果、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.265-266, 2022.9.

- ◆赤井冬来、小寺直幸、金川基、飯塚信一、高橋孝二、安田稜太、丸田誠、田村彰教：梁端部に開孔を有するヒンジロケーション接合部に関する研究 (その6) 片持ち梁型曲げ追加実験の考察、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.267-268, 2022.9.
- ◆郡司康浩、熊田健太、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の力学性状に関する検討 その1 実験概要、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.275-276, 2022.9.
- ◆熊田健太、郡司康浩、高橋孝二、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の力学性状に関する検討 その2 ひび割れ性状、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.277-278, 2022.9.
- ◆高橋孝二、郡司康浩、熊田健太、菅野秀人、西田哲也：壁脚部のみに水平スリットを有する RC 袖壁付き柱の力学性状に関する検討 その3 断面内ひずみ分布、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.279-280, 2022.9.
- ◆山崎康雄、長瀬優斗、高橋孝二、北嶋圭二：間柱型ダンパーを有する実大建物を模擬した6層鋼構造骨組みの振動台実験 その1 鋼構造骨組みの設計および構造諸元、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.575-576, 2022.9.
- ◆長瀬優斗、山崎康雄、高橋孝二、北嶋圭二：間柱型ダンパーを有する実大建物を模擬した6層鋼構造骨組みの振動台実験 その2 鋼構造骨組みの振動台実験および結果、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.577-578, 2022.9.
- ◆加藤百華、村上航太、高橋孝二、北嶋圭二、中西三和、安達洋：等価線形化

法による制震補強設計法に関する研究 その10 制震建物に作用する外力分布の検討、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.401-402, 2022.9.

- ◆村上航太、加藤百華、高橋孝二、北嶋圭二、中西三和、安達洋：等価線形化による制震補強設計法に関する研究 その11 層崩壊する建物および立面的不整形な建物への適用検討、日本建築学会大会 (北海道) 学術講演会梗概集 pp.403-404, 2022.9.
- 受賞等 —————
- ◆金川基、高橋孝二、小寺直幸、吉川昇：発明奨励賞、高強度間仕切り壁工法、公益財団法人発明協会、2022.9.

————— 学外活動 (講演・講義等) —————

- ◆高橋孝二：(一社) 日本建築構造技術者協会九州支部主催、プレストレストコンクリート構造の設計勉強会、2023.1.20 (講師)

————— 学外活動 (委員会活動等) —————

- ◆日本建築学会・司法普及交流部会 (委員)
- ◆日本建築学会関東支部・PC 建築専門研究委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・フローティング建築小委員 (委員)
- ◆日本建築学会・第23 期代議員

————— 研究助成・受託研究 —————

- ◆高橋孝二：共同研究、西松建設㈱、水平スリットのみを配置する鉄筋コンクリート袖壁付き柱構造の性状把握に関する共同研究

星上研究室

————— 審査付論文 —————

- ◆宇多高明、星上幸良、和知久仁彦、大木康弘、押見青幹：阿字ヶ浦でのサンドリサイクルに伴う盛り土養浜の変形実態、土木学会論文集 B3 (海洋開発) Vol.78, No.2, L91-L96, 2022.06.
- ◆三田周平、野志保仁、宇多高明、星上幸良：UAV の活用による海岸ゴミの漂着調査 - 大洗南の大貫海岸での観測例、土木学会論文集 B3 (海洋開発) Vol.78, No.2, L739-L744, 2022.06.
- ◆高橋統一朗、宇多高明、小林昭男、星上幸良、野志保仁：海浜変形に追従した海浜植生帯の変化予測モデル、土木学会論文集 B2 (海岸工学) Vol.78, No.2, L463-L468, 2022.11.

————— 口頭発表・ポスター発表 —————

- ◆三浦颯斗、星上幸良、高野楓太、福島康平：UAV を用いた海水浴場の安全管理に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2022 講演概要集、No.34 (PDF) セッション 15-3, 2022.7.
- ◆高須健巨、星上幸良、大川哲史、今野凌、菅又綾太：津波自主避難計画の作成手法に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2022 講演概要集、No.34 (PDF) セッション 7-1, 2022.7.
- ◆宇多高明、星上幸良、五十嵐竜行：沼川第二放水路でのフラッシュ放流の現地実験、日本沿岸域学会研究討論会 2022 講演概要集、No.34 (PDF) セッション 19-4, 2022.7.

- ◆押見青幹、星上幸良：UAV 写真測量における地形計測精度を補正する画像処理法の開発、2022 年度日本大学理工学部学術講演会、2022.11.

————— 所属学生の受賞等 —————

- ◆三浦颯斗 (共著)：「研究討論会 2022」優秀講演表彰、UAV を用いた海水浴場の安全管理に関する研究、日本沿岸域学会、2022.7.

————— 学外活動 (講演・講義等) —————

- ◆星上幸良：津波を正しく理解するために～「自助」の普及に向けて～、千葉県館山市、館山市防災ミーティング、2023.1.

————— 学外活動 (委員会活動等) —————

- ◆日本建築学会 津波 WG 委員
- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会 災害委員会 委員
- ◆日本建築学会 SDGs 対応推進特別委員会 委員

————— 研究助成・受託研究 —————

- ◆星上幸良：研究奨励寄付金、一般財団法人土木研究センター、UAV 測量による七里ガ浜の地形変化に関する研究

沿岸域工学研究室 (野志・小林)

————— 審査付論文 —————

- ◆宇多高明、野志保仁、高橋統一朗、中田祐希、伊達文美：宮古島の与那覇前浜ビーチの侵食実態、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、Vol.78, No.2, pp.L67-L72, 2022.
- ◆野志保仁、宇多高明、高橋統一朗、中田祐希：2021 年の海底火山噴火により発生した軽石の漂着調査 - 屋我地漁港周辺での UAV 調査 -、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、Vol.78, No.2, pp.L721-L726, 2022.
- ◆高橋統一朗、宇多高明、野志保仁、中田祐希：沖縄大宜味海岸南部の突堤群周辺における軽石漂着の実態、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、Vol.78, No.2,

pp.L727-L732, 2022.

- ◆中田祐希、宇多高明、高橋統一朗、野志保仁：離岸堤周辺での軽石漂着の現地調査 - 沖縄大宜味海岸の例 -、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、Vol.78, No.2, pp.L733-L738, 2022.
- ◆三田周平、野志保仁、宇多高明、星上幸良：UAV の活用による海岸ゴミの漂着調査 - 大洗南の大貫海岸での観測例、Vol.78, No.2, pp.L739-L744, 2022.
- ◆横田拓也、小林昭男、宇多高明、野志保仁：人工リーフ設置に伴う海浜変形とそれによる飛砂助長の予測、土木学会論文集 B2 (海岸工学)、78 巻 2 号

教員研究業績
研究室活動業績

p.L.457-L.462, 2022.

- ◆高橋紘一郎、宇多高明、小林昭男、星上幸良、野志保仁：海浜変形に追隨した海浜植生帯の変化予測モデル、土木学会論文集B2（海岸工学）、78巻2号 p.L.463-L.468, 2022.
- ◆Yokota, T., Uda, T., and Noshi, Y.: Numerical simulation on sand accumulation behind artificial reefs and enhancement of windblown sand to hinterland, INTEC, London, 2022.
- ◆Uda, T., Yokota, T., and Noshi, Y.: Field observation of the formation of sand spit and sandbar along the north shore of Lake Yamanaka, Trans., Japan. Geomorphological Union, 43-2, pp.63-77, 2022.
- ◆Uda, T. and Noshi, Y.: Recent shoreline changes due to high-angle wave instability along the East coast of Lingayen Gulf in the Philippines. In: Earth and its Atmosphere: 2nd Edition. Hyderabad, India: Vide Leaf, 2022.

口頭発表・ポスター発表

- ◆宇多高明、五十嵐竜行、伊達文美、野志保仁：新設人工海浜における飛砂問題 - 沖縄豊崎海浜公園の例、日本沿岸域学会研究討論会 2022 講演概要集、No.34 (PDF), セッション3-3, 2022.
- ◆星上幸良、宇多高明、三田周平、野志保仁、菊地桂史：沿岸漂砂による前浜砂の分級と前浜勾配の変化、日本沿岸域学会研究討論会 2022 講演概要集、No.34 (PDF), セッション3-4, 2022.

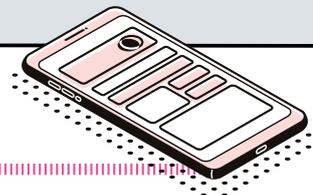
学外活動（委員会活動等）

- ◆野志保仁：土木学会海洋開発委員会（幹事兼委員）
- ◆野志保仁：洋上風力技術研究会（専門家・環境アセスメント）

研究助成・受託研究

- ◆野志保仁：受託研究、サンコーコンサルタント株式会社、UAV 写真測量による沖合海岸保全施設の点検手法と運用方法の確立
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、海岸研究室有限会社、合田 SMB 法によるエネルギー平均波の平面波浪場の推算プログラムの作成
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、株式会社オリエンタルコンサルタンツ、神奈川県湯河原の海浜地形に関する研究
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、一般財団法人土木研究センター、逗子海岸の海浜地形と底質粒径組成に関する研究に関連する調査

最新情報を SNS でチェック!!



令和4年度 海洋建築系研究懇談会（桜門建築会主催）開催報告

海洋建築系研究懇談会では、海洋建築分野に関する最新動向や研究活動に関して、毎年講演会を開催しています。令和4年度では、合計4回（海洋建築工学科・特任教授2名と外部講師2名）の講演会が開催され、様々な意見交換が行われました。本講演会は桜門建築会の会員に加えて、海洋建築工学科の大学院生、学部生も参加できますので、是非、海洋建築分野のさまざまな知識のインプットの機会として活用してください。（幹事：菅原遼）

回数	講演タイトル	講演者	講演内容	参加人数
第1回	海から建築を再発明する -海上ファーム「グリーンオーシャン」の描く景色-	塩浦政也氏 (株式会社 N-ARK)	本講演では、農業・林業・水産業の交差点を目指す海上ファーム「グリーンオーシャン」の取り組みに関して、事業コンセプトと浮体式建築物の実証実験の最新動向についてご講演いただきました。	69名 (ハイブリット開催)
第2回	地球温暖化とリゾートアイランド	桜井慎一先生 (海洋建築工学科・特任教授)	本講演では、これまでの研究実績を踏まえた上で、将来的な地球温暖化に対する海洋国家モデルイプの実態と計画についてご講演いただきました。	35名 (ハイブリット開催)
第3回	これまでの研究成果と海洋建築分野への貢献	近藤典夫先生 (海洋建築工学科・特任教授)	本講演では、大スパン建築物や海洋建築物の周辺あるいは都市空間において風や海流などがどのように流れていくのか、そして建築物および人間にどのような影響を与えるのかを、コンピューターによるシミュレーション手法を使った研究についてご講演いただきました。	34名 (ハイブリット開催)
第4回	都市型自動運転船「海床ロボット」による水辺のイノベーション	高浜洋平氏 (株式会社竹中工務店)	本講演では、都市の静水面を自動で動く海床ロボットが人や物を運び、水辺のスマートでレジリエントな社会を描くプロジェクトについてご講演いただきました。	38名 (ハイブリット開催)



第1回



第2回



第3回



第4回

令和
4
年度

卒業生の就職状況および就職活動に向けて

1. 就職状況の全体像

昨年度（2022年2月末時点）の進学・就職状況を（表1）に示します。就職希望者の就職内定率は、学部・大学院ともに100%となりました。令和4年度就職活動は、前年度とは違い多くの企業で対面形式のインターンシップや企業説明会および採用面接が開催され、コロナ禍以前の状態にほぼ戻りつつありました。また、建設業界の人手不足は未だ顕著であり、人材確保に積極的な企業が多いことから、ここ数年の就職状況は大変、堅調な状態であると言えます。

表1 就職・進学状況（学部・大学院）

	学部			大学院			学部・院 合計	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計		R3年度	R2年度
学生数（人）	109	27	136	32	3	35	171	168	169
就職希望者（人）	59	22	81	30	3	33	114	127	125
内定	59	22	81	30	3	33	114	125	124
未定	0	0	0	0	0	0	0	2	1
内定率（%）	100	100	100	100	100	100	100	98	99
大学院進学（人）	29	0	29	0	0	0	29	36	39
本学	27	0	27	0	0	0	27	36	38
他大学	2	0	2	0	0	0	2	0	1
その他（人）	3	1	4	1	0	1	5	5	5
研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学（希望者含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他大学・専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
次年度公務員志望	1	0	1	0	0	0	1	0	1
就職の意思のない者	2	1	3	1	0	1	4	5	4

2. 業種別就職内定先

本学科の2023年3月卒業学生の主要内定企業一覧を（表2）に示します。就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く、令和4年度は63名であり全体の61%を占めています。また、設計事務所は6名（6%）、住宅・不動産は13名（13%）、であり、これらで全体の80%を占めています。また、比較的土木寄りの業種である建設・海洋コンサルタントへの就職が18名（18%）いることや建設業の中でもマリコン（表中の*）が多いことが本学科の特徴です。内定先企業名をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることが分かります。

3. 就職活動のサポート

就職活動に際しては、学科が積極的なサポートを行っています。就職活動スケジュールを（表3）に示します。新3年生の前期の授業として「海洋建築工学キャリアデザイン」を実施しています。本授業では、最新の企業動向や就職活動における重要な情報を伝えます。また、大手のゼネコンや設計事務所、コンサルタントに内定した先輩方の体験談を座談会形式で聞くこともできます。これまでの就職指導の経験を通して、海洋建築工学科の学生の適性や嗜好を踏まえた内容としているため、他にはないものになっています。是非、有効活用してください。

表2 主要就職先企業一覧

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	清水建設	2		建設業	東洋建設*	4		海洋 コンサル タント	日本港湾コンサルタント		2
	大成建設	5	4		りんかい日産建設*	1			サンユウシビルエンジニアリング		1
	大林組	2			若築建設*	1	1		建設技術研究所		1
	鹿島建設	1			三協フロンティア	1			国際航業		2
	竹中工務店	3			大成ユーレック	1			アジア航測	1	1
	戸田建設	2			山九	1			日本工営		1
	フジタ	2	2	菊池建設	1		日本エンジニアリング		2		
	前田建設工業	1		長坂建設	1		日本都市技術			1	
	西松建設	2		織本構造設計		1	オオバ			1	
	青木あすなろ建設	1		NTT ファシリティーズ		1	八千代エンジニアリング			1	
	熊谷組	1		クロスファクトリー	1		三井共同コンサルタント			1	
	長谷工コーポレーション	4		建築計画	1		日立造船			2	
	高松建設	1		大和ハウス工業	2	2	東京都		3		
	奥村組	2		積水ハウス	2		千葉県庁		1		
	北野建設	1		ポラス	2		神奈川県庁			1	
	白石建設	1		住友林業	1		レイズネクスト			1	
	五洋建設*	6		一条工務店	1		ユアテック			1	
	東亜建設工業*	4		ユニバーサルホーム	1		早稲田大学大学院		1		

*マリコン

海洋建築工学科 OBOG による会社説明会である「カイケン JOB スクール」(表3)では、令和4年度から対面形式の開催にもどし、海建の学生を熱望する企業が40社以上参加します。本来、これらの企業をすべて訪問するには、おそらく半年以上かかるでしょう。「カイケン JOB スクール」は毎週決まった曜日(前年度は毎週金曜日16:40~18:30)に2社~4社程度で開催しているため、建築、土木、海洋、エンジニアリング、建設コンサルタントなど、様々な企業の情報を頻繁に収集することができます。毎週参加し、視野を大きく広げる機会としてください。また、建築学科との共催による「OBOGと学生との懇談会」(表3)は、建築関連企業に特化した就職イベントです。こちらは令和2年度からオンライン上での開催となりました。大手ゼネコンを含む約80社が参加し、企業側の説明者は両学科のOBOGです。建設業に進む学生の8割は、これらのイベントの参加企業に就職しています。各種イベントを最大限に有効活用し、日本大学の強みであるOBOGネットワークを駆使して、希望する企業への就職内定を勝ち取りましょう。

令和5年度の学科の就職指導担当は高橋、寺口、学科教室事務の担当者がフォローします。学科教室事務室は13号館3階1331室です。対応時間は平日9~17時です。また、moodleの「2025卒 就職関連情報」ページには、学科の就職イベントやインターンシップおよび会社説明会、求人情報などを随時掲載しています。こまめに確認するように心掛けてください。さらに、13号館1階の「キャリア支援センター」では、企業情報やOBOGの活動履歴の閲覧に加え、履歴書の作成指導や模擬面接を受けることができます。是非一度足を運んでみてください。

4. 本年度の就職活動に向けて

企業の採用活動の時期は、年々早期化する傾向が見られます。大手ゼネコンや大手設計事務所は、かなり早期に採用活動を開始しています。有利に就職活動を進めるためには、夏期インターンシップ(8~9月頃)に参加するなど、情報収集を行うとともに計画性をもって活動していく必要があります。また、早期に採用活動を実施する企業は、夏期インターンシップや現場見学会において、リクルーターによる面談が行われ学生の選抜が進められます。これは実質的な面接です。年内に内々定を出す企業もあります。それ以外の多くの企業は、採用時期は若干遅くなりますが、各種の就職イベントが次々に開催されます。そのため、夏ごろには就職の方向性(業種・職種・企業規模等)を決めておく必要があります。各企業の開催日程が重複するため、それほど多くのイベントには参加出来ないためです。インターンシップへの参加は就職活動の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知り、企業は学生と巡り会う機会として、双方のメリットがあるため、この数年で開催頻度が急速に増えてきており、その重要度も増す傾向にあります。特に、夏期インターンシップには、興味のある業種の企業に最低でも1つは参加しましょう。就職活動に対する意識・考え方も変わるはずです。3年生の夏休みの過ごし方は重要であり、SPI試験対策や専門試験対策、企業研究、履歴書の試作等、やるべきことが盛りだくさんです。

5. オンラインでの就職活動における留意点

コロナ禍以降でも、対面形式に全て移行せずとオンライン形式を併用する企業が多いです。オンラインを中心とした就職活動では、

表3 就職スケジュール

		3年生 / 修士1年生						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
学科支援イベント	キャリアデザイン授業期間(水曜日5限:15週)							
	▼ ガイダンス(年間スケジュール、就職活動の注意事項等) ▼ 企業研究(2週:意義とポイント) ▼ 自己分析・エントリーシート(3週:書き方) ▼ インターンシップ(2週:参加対策、心構え) ▼ SPI等の試験対策講座 ▼ 内定者座談会(3週:ゼネコン、設計、コンサルタント) ▼ 夏季休暇の過ごし方(心構え)	▼ ガイダンス (右記①~③イベントの説明会)						
早期選考企業		■ 会社説明会・インターンシップ・現場見学会						



カイケン JOB スクール開催風景



OBOG と学生との懇談会開催風景

大学や企業からの様々な情報を見逃さないように注意しましょう。企業の動きや同級生の活動状況が分からず、自分自身の就職活動の状態に不安を感じることもあると思います。就職指導担当の教員や所属する研究室の指導教員に相談したり、研究室の先輩の体験談を聞いたりすると方向性が見いだせるはずですよ。自ら積極的に情報収集を行うようにしましょう。

6. 大学院進学のため

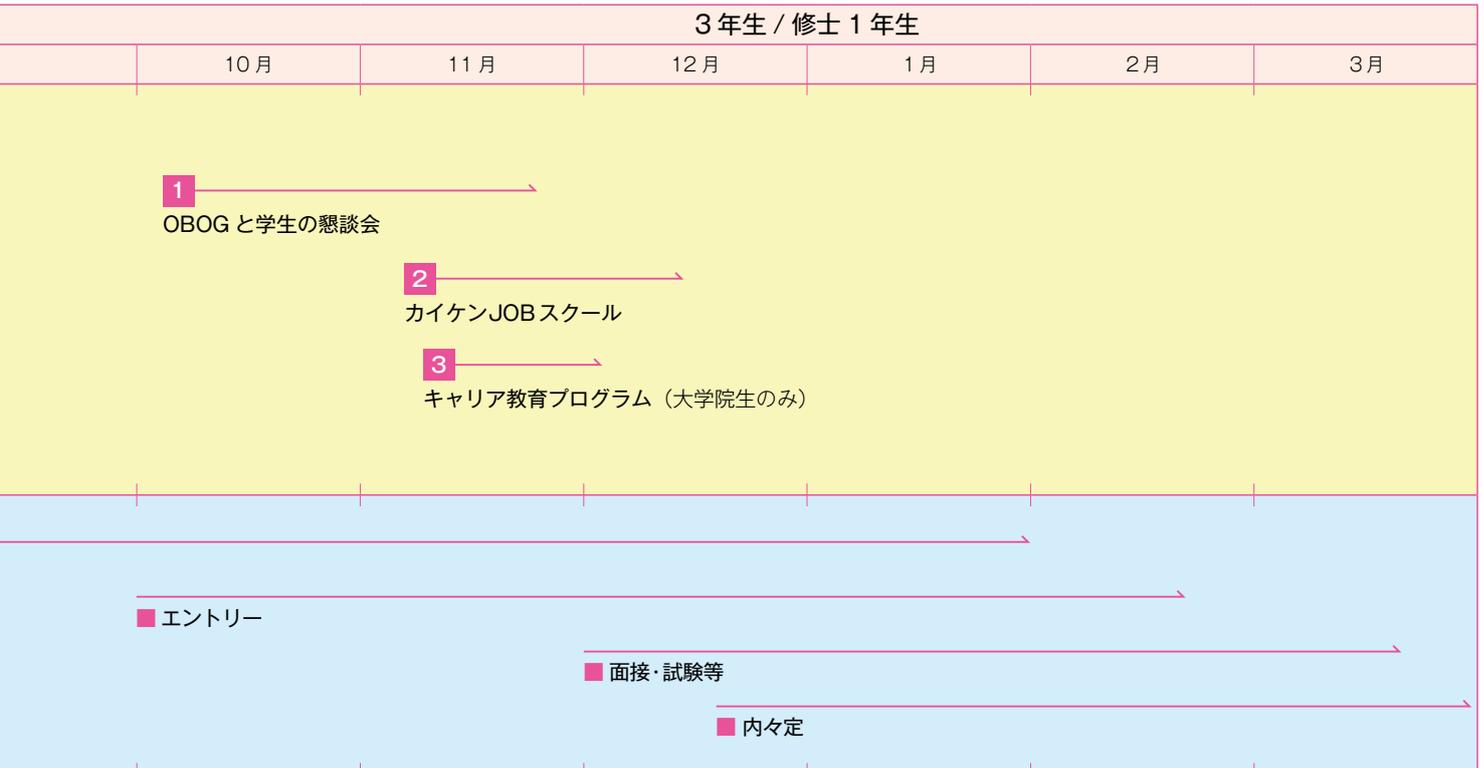
海洋建築工学科では、毎年数多くの学部生が大学院へ進学しています。(表1)に示すように毎年3割程度は進学していて、理工学部内でも常にトップクラスです。大学院で更にレベルの高い学問を修

得ることにより、専門性を高めた仕事に就くことができます。是非、進学も視野に入れた進路を考えてみてください。

大学院の入試は、4年生の年の7月、9月、3月の3期に渡り実施されます。試験は筆記と面接になりますが、3年生までの成績による推薦入学もあるので、しっかり学修することを心がけましょう。

学科就職担当

高橋孝二・菅原遼・寺口敬秀



海と建築

vol.
27

日本建築の最高峰・桂離宮は海洋建築

1 933年に来日したドイツの著名建築家ブルーノ・タウトが「泣きたくなるほど美しい」と絶賛した桂離宮は、まさに日本建築の最高峰である。京都市の中心部を南北に流れる桂川の右岸に位置する桂離宮は、約400年前の1620年に皇族の別邸として造営されたのが始まりであり、明治期以降は宮内庁が管理運営している。

 遊式庭園の中央には、変化に富んだ汀線形状の池や水路と5つの島を配置し、緻密な計算に基づく景観

計画に沿って複数の建物群が見事に配置されている。現在、桂川両岸は強固な堤防が整備され、桂離宮とは切り離せているが、かつては桂離宮の池と桂川は繋がっており、川から池へ水を取り込むだけでなく、園内から屋形舟で桂川に漕ぎ出して、舟上で月見や酒食を楽しんでいた。このことを裏づけるように、池畔には木船を係留した舟屋と複数の船着場が残されている。古書院、中書院、新御殿が雁行に連なる建物は、地上から高さ約1.8mの高床式となっているが、これは湿気を避けて暑い京都の夏を涼しく過ごし、池の水面に写つる月を愛でる視点を確保するだけでなく、桂川の氾濫による浸水被害を軽減するための工夫であった。水景観を活かし、水害予防に備えた桂離宮は、まさしく海洋建築といえる。

ネ ットで事前予約すれば、10人程度のグループに分かれて、職員が園内を案内してくれる。インバウンドの回復で混雑する前に、是非、訪問して日本建築の美の神髄を堪能しよう。
(特任教授 桜井慎一)



教員異動

就任：教授 三五弘之 先生 (一般教育教室より異動)
昇格：准教授 佐藤信治 先生
就任：非常勤講師 星裕樹 先生
就任：非常勤講師 船曳桜子 先生
就任：非常勤講師 高野洋平 先生
就任：非常勤講師 長瀬裕 先生
就任：非常勤講師 朝比奈大輔 先生
就任：非常勤講師 西岡陽一 先生
就任：非常勤講師 大脇崇 先生
就任：非常勤講師 高山百合子 先生
就任：非常勤講師 新井寿昭 先生
就任：非常勤講師 柴山淳 先生

退任：教授 小林直明 先生 (4月より特任教授)
退任：助教 野志保仁 先生 (4月より非常勤講師)
退任：客員教授 木本正治 先生
退任：非常勤講師 廣海十朗 先生
退任：非常勤講師 小林雅志 先生
退任：非常勤講師 小野和幸 先生
退任：非常勤講師 新田知生 先生
退任：非常勤講師 安藤亮 先生
退任：非常勤講師 石浜弘道 先生
退任：非常勤講師 太田鋼治 先生

カイケンマガジン No.119

発行者／福井剛 発行日／令和5年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部海洋建築工学科教室
Tel：047-469-5420 (事務室)
Fax：047-467-9446

編集委員：相田康洋
<https://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
デザイン制作 — QB System Co.,LTD.